



CA92344-0518-03

FUJITSU Server PRIMEQUEST 2000 シリーズ

かんたん構築ガイド

(VMware 編)

はじめに

本書は、PRIMEQUEST 2000 シリーズの構築と導入を支援するガイドです。
 VMware およびゲスト OS のインストールと、仮想環境利用開始までの基本的な手順について説明しています。

システム構成

本書では、以下のシステム構成で構築した場合について記載しています。
 仮想マシンを複製することで、同じ仮想マシン構成を簡単に作成できます。

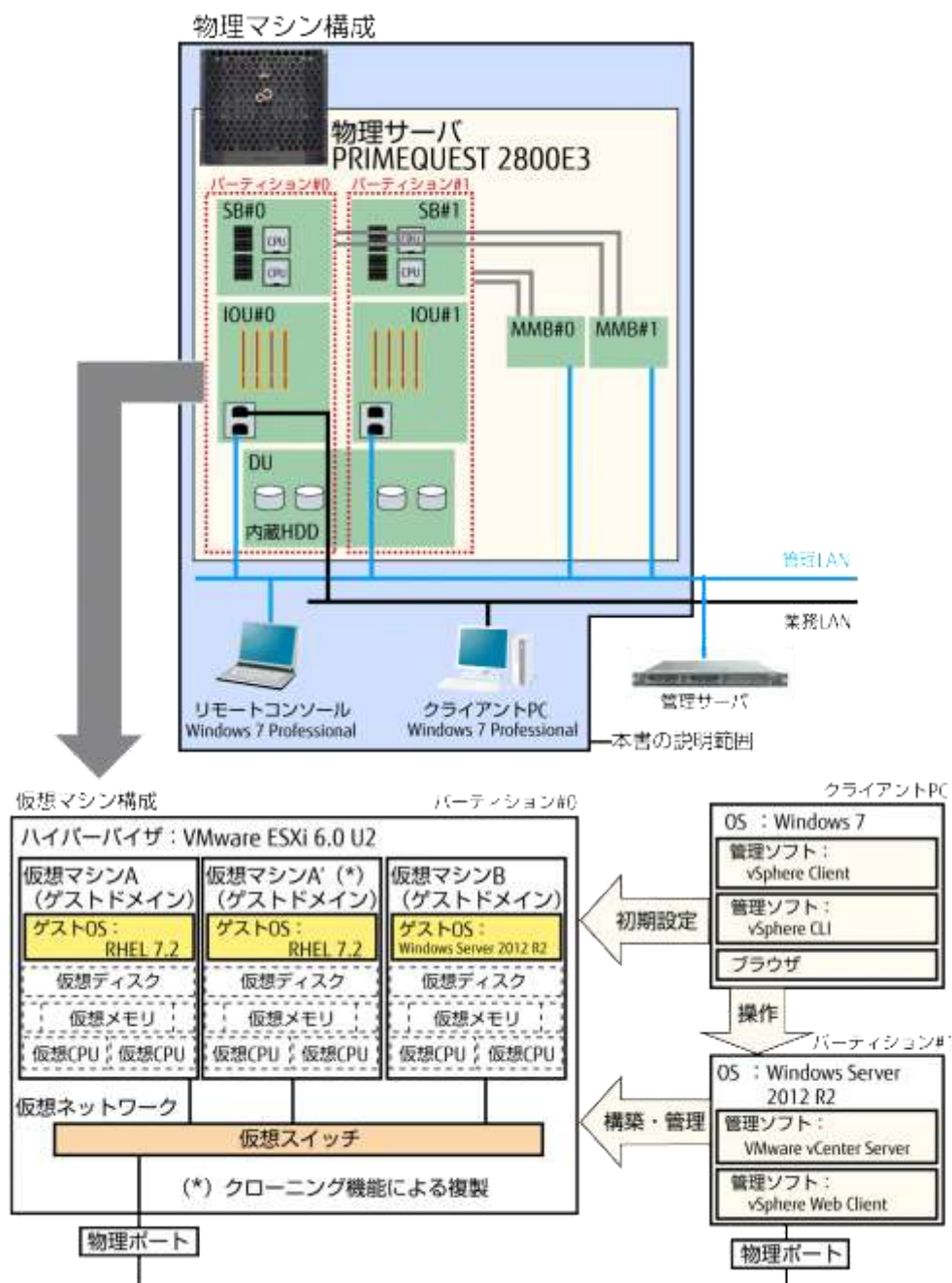


図 本書で説明するシステム構成

項目		構成内容
本体モデル		PRIMEQUEST 2800E3
クラスタ		なし (シングル構成)
OS ブート (ホスト、ゲスト)		内蔵ディスク
メモリミラー		あり
	ハイパーバイザ	VMware® vSphere™ ESXi 6.0 U2
	SB	1 枚 (1SB あたり、CPU : 24 コア (2.2GHz/60MB) ×2 個、メモリ : 32GB (16GB (8GB DIMM×2) ×2 セット))
	IO ユニット	1 台
	ディスクユニット	HDD (300GB) ×2 台 RAID レベル 1
	OS	Windows Server® 2012 R2 Standard (64-bit)
	SB	1 枚 (1SB あたり、CPU : 24 コア (2.2GHz/60MB) ×2 個、メモリ : 32GB (16GB (8GB DIMM×2) ×2 セット))
	IO ユニット	1 台
	ディスクユニット	HDD (300GB) ×2 台 RAID レベル 1
	ゲスト OS	Red Hat® Enterprise Linux® 7.2 (for Intel64) ×2
	仮想 CPU	各仮想マシンに 1vCPU ずつ
	仮想メモリ	各仮想マシンに 2048MB ずつ
	仮想ストレージ	各仮想マシンに 25GB ずつ
	ゲスト OS	Windows Server® 2012 R2 Standard (64-bit) ×1
	仮想 CPU	1vCPU
	仮想メモリ	4096MB
	仮想ストレージ	40GB

略称

本書では、製品名を以下のように表記しています。

製品名	略称	
PRIMEQUEST 2400S3		
PRIMEQUEST 2400S3 Lite		
PRIMEQUEST 2400E3		
PRIMEQUEST 2400L3		
PRIMEQUEST 2800E3		
PRIMEQUEST 2800L3		
Red Hat® Enterprise Linux® 7 (for Intel64)		
Red Hat® Enterprise Linux® 7 (for x86)		
Microsoft® Windows Server® 2012 R2	Windows Server 2012	
Windows® 7 Professional	Windows 7	
VMware® vSphere® 6	VMware vSphere	
VMware® ESXi™ 6.0 U2	ESXi	
VMware® vCenter Server™ 6.0 U2	vCenter Server	
VMware® vSphere® Web Client	Web Client	
VMware® vSphere® Client	vSphere Client	
VMware® vSphere® CLI	vSphere CLI	
ServerView Suite ServerView Installation Manager	SVIM	
ServerView Operations Manager	SVOM	
富士通 Linux サポートパッケージ	FJ-LSP	

関連ドキュメント

システムを構築するときに、必要に応じて参照してください。

名称	略称
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 製品概説	製品概説
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 導入マニュアル	導入マニュアル
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 運用管理マニュアル	運用管理マニュアル
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス	運用管理ツールリファレンス
VMware vSphere 6 ソフトウェア説明書 (PRIMEQUEST)	ソフトウェア説明書
VMware vSphere 6 におけるサーバ監視の留意事項	—
ESXi および vCenter Server 6.0 のドキュメント (*1)	VMware 社のマニュアル
ServerView Suite ServerView Installation Manager 取扱説明書	—
ServerView ESXi CIM Provider VMware vSphere 6 インストールガイド	—
ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 6 インストールガイド	—
Red Hat Enterprise Linux 7 Linux ユーザーズマニュアル (SupportDesk サービスご契約者様向け) (*2)	Linux ユーザーズマニュアル

(*1) VMware 社のサイト (<http://www.vmware.com/>) から参照できます。

(*2) 参照するには SupportDesk 契約が必要です。

コマンド入力

本文中では、コマンド入力を以下のように表現しています。

- ▶ ユーザー可変 (ユーザーの環境によって異なる) の文字列

以下のように、斜体で表記します。

```
# /sbin/e2label <device> <label>
```

- ▶ 追加/変更対象文字列

以下のように、太文字で表記します。

```
NETWORKING=yes  
HOSTNAME=xxxx  
:  
VLAN=yes
```

商標

- VMwareおよびVMwareの製品名は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、およびSQL Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Red Hatは米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。
- Linux®は米国及びその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Intelは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、会社名と製品名はそれぞれ各社の商標、または登録商標です。

目次

はじめに	1
1 導入前の準備.....	6
1.1 物理マシンの設定	6
1.2 メディアの準備	7
1.2.1 メディアの種類	7
1.2.2 vSphere CLI のインストールファイルの準備	7
1.2.3 RHEL ディストリビューション DVD イメージの準備	7
1.2.4 FJ-LSP CD イメージの準備 (富士通 SupportDesk サービス契約者のみ)	8
2 物理マシンのインストールと設定.....	9
2.1 ホスト (ESXi) のインストール.....	9
2.1.1 SVIM を使用したインストール.....	9
2.2 管理クライアント PC のインストール	18
2.2.1 事前準備.....	18
2.2.2 vSphere Client のインストール	18
2.2.3 vSphere CLI のインストール.....	22
2.3 管理サーバのインストール	25
2.3.1 事前準備.....	25
2.3.2 vCenter Server のインストール	25
2.4 インストール後の設定と確認.....	32
2.4.1 クライアント統合プラグインのインストール	32
2.4.2 ネットワーク設定.....	39
2.4.3 ソフトウェアのアップデート.....	62
2.4.4 ServerView ESXi CIM Provider の確認	62
2.4.5 管理情報・構成情報の保存	64
2.4.6 セキュリティの設定.....	64
3 仮想マシンの構成	65
3.1 仮想マシンの作成	65
3.1.1 データセンターの作成とホストの追加.....	65
3.1.2 仮想マシンの作成.....	73
3.2 ゲスト OS のインストール	78
3.2.1 インストールメディアの準備.....	78
3.2.2 Windows Server 2012 R2 のインストール.....	78
3.2.3 RHE7.2 のインストール	87
3.3 管理ツールのインストール	93
3.3.1 ServerView RAID Manager のインストール.....	93
3.3.2 SVOM のインストール	93

3.4 仮想マシンの展開	94
改版履歴	104
使用条件	105

1 導入前の準備

PRIMEQUEST 2000 シリーズで仮想環境を構築する前に必要な作業について説明します。

1.1 物理マシンの設定

『導入マニュアル』の 1～3 章に従い、物理マシンを準備します。

主な作業と参照先を以下に示します。

項目	作業	参照先
MMB への接続と設定	ネットワーク設定 など	『導入マニュアル』の 「3.3 MMB への接続と設定」
パーティションの設定	パーティションの構成作成 など	『導入マニュアル』の 「3.4 パーティションの設定 (物理パー ティション)」
構成情報の保存	MMB 構成情報の保存	『導入マニュアル』の 「3.7 構成情報の保存」
Boot Watchdog の解除	MMB Web-UI の [ASR Control] メニューで Boot Watchdog を解除	『運用管理マニュアル』の 「11.4 パーティションの自動再起動条 件の設定」
CPU 設定の確認と変更	UEFI の [Device Manager] - [CPU Configuration] メニューで設定の確認と変更	以下の記事および『運用管理ツールリフ ァレンス』を参照

● CPU設定の確認と変更について

UEFIの [Device Manager] - [CPU Configuration]メニューで、以下の確認、設定を行ってください。

- ▶ UEFI の設定方法は、『運用管理ツールリファレンス』を参照してください。
- ▶ VMware の使用には、Intel VT 機能 ([Intel Virtualization Technology]) が有効になっている必要があります (デフォルトは有効)。
無効に設定されている場合は、必ず有効にしてください。
- ▶ 正確な CPU 使用率の把握が必要な場合は、ハイパースレッディング・テクノロジー機能 ([Hyper-threading]) を無効にしてください (デフォルトは有効)。
- ▶ 省電力重視や性能重視の場合の設定値については、『運用管理ツールリファレンス』の付録『UEFI の推奨設定』を参照してください。

1.2 メディアの準備

1.2.1 メディアの種類

インストールに必要な以下のメディアを用意し、必要に応じて CD または DVD を作成します。

メディア	用途	入手方法
ServerView Suite DVD	・ホスト (ESXi) のインストール ・管理サーバの OS インストール	本体に添付
ESXi のインストール イメージ	ホスト (ESXi) のインストール	『ソフトウェア説明書』を参照し、ダウンロードしてください。
vCenter Server の インストールイメージ	・vSphere Client のインストール (管理クライアント PC 上) ・vCenter Server のインストール (管理サーバ上) ・Web Client のインストール (管理サーバ上)	以下のVMware社ダウンロードサイトから入手してください。 http://downloads.vmware.com/d/ (英語版) http://downloads.vmware.com/jp/d/ (日本語版)
vSphere CLI のインス トールファイル	vSphere CLI インストール (管理クライアント PC 上)	「 1.2.2 vSphere CLI のインストールファイルの準備 」を参照してください。
Windows Server 2012 R2 のインストールイメージ	・管理サーバの OS インストール ・ゲスト OS のインストール	本体に添付 (イネーブルキットを手配した場合)
RHELのディストリビュー ション DVD	ゲスト OS のインストール	「 1.2.3 RHEL ディストリビューション DVD イメージの準備 」を参照してください。
FJ-LSP CD イメージ (SupportDesk サービス を契約されている場合)		
kernel-debuginfo CD イメージ		
ServerView RAID Manager のインストール ファイル		
SVOM のインストールフ ァイル		

1.2.2 vSphere CLI のインストールファイルの準備

vSphere CLI は、「vSphere SDK for Perl 6.0 U2」に含まれています。

以下の手順でダウンロードしてください。

1. 以下のサイトにアクセスし、[ドライバとツール] タブを選択します。
https://my.vmware.com/jp/web/vmware/info/slug/datacenter_cloud_infrastructure/vmware_vsphere/6
2. [Automation Tools and SDKs] から、使用するクライアント PC 環境に合わせた [vSphere SDK for Perl 6.0 U2] をダウンロードします。

1.2.3 RHEL ディストリビューション DVD イメージの準備

他のシステム上で、Red Hat のカスタマーポータル (<https://access.redhat.com>) からディストリビューション DVD の ISO イメージファイルをダウンロードします。

注意

- ダウンロードするには、Red Hat Network (RHN) へのサブスクリプション登録が必要です。
- ディストリビューション DVD のイメージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー (for x86 / for Intel64) ごとに異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

1.2.4 FJ-LSP CD イメージの準備(富士通 SupportDesk サービス契約者のみ)

以下を参照し、FJ-LSP CD イメージと kernel-debuginfo CD イメージを準備してください。

■ FJ-LSP CD イメージのダウンロード

他のシステム上で、富士通 SupportDesk UpdateSite Web サイト (<https://eservice.fujitsu.com/updatesite/>) から、FJ-LSP CD の ISO イメージファイルをダウンロードします。

注意

- ダウンロードするには、富士通との SupportDesk 契約が必要です。
- FJ-LSP CD のイメージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー (for x86 / for Intel64) ごとに異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

■ kernel-debuginfo CD イメージの作成

FJ-LSP イメージのダウンロードページから以下の 2 種類のパッケージをダウンロードし、ISO イメージファイルを作成します。

- ▶ kernel-debuginfo-common-`<アーキテクチャー>-<バージョン>.el6.<アーキテクチャー>.rpm`
- ▶ kernel-debuginfo-`<バージョン>.el6.<アーキテクチャー>.rpm`

注意

- ダウンロードするには、Red Hat Network (RHN) へのサブスクリプション登録が必要です。
- パッケージファイルは、マイナーリリースおよびアーキテクチャー (for x86 / for Intel64) ごとに異なります。目的の DVD イメージファイルをダウンロードしてください。

2 物理マシンのインストールと設定

2.1 ホスト (ESXi) のインストール

2.1.1 SVIM を使用したインストール

ESXi を PRIMEQUEST のパーティションにインストールします。

本書では、VMware ESXi 6.0 U2 を ServerView Installation Manager 11.16.06 のガイドモードを使用してインストールしています。

1. バーチャルメディアを接続する PC に、「ServerView Suite DVD1」をセットします。
2. パーティションをバーチャルメディアからブートする準備をします。
 1. MMB Web-UI から、ビデオリダイレクションを起動します。
MMB Web-UI の詳細については、『運用管理ツールリファレンス』を参照してください。

注意

ビデオリダイレクションを使用するには、コンソール用 PC のブラウザで Java が利用できる環境を整える必要があります。

2. [メディア] → [仮想メディアウィザード...] で、「ServerView Suite DVD1」をセットしたドライブを追加します。
3. CD/DVD メディアの [CD/DVD に接続] を選択し、[OK] をクリックします。
3. セットした DVD から起動するように設定し、パーティションの電源を投入します。
 1. MMB Web-UI の [Power Control] 画面で、対象のパーティションの [Boot Selector] から、[Force boot from DVD] を選択します。
 2. [Power Control] で、[Power On] を選択し、[Apply] をクリックします。

4. [Windows Boot Manager] 画面で、[ServerView Installation Manager (winPE64)] を選択し、[Enter] キーを押します。

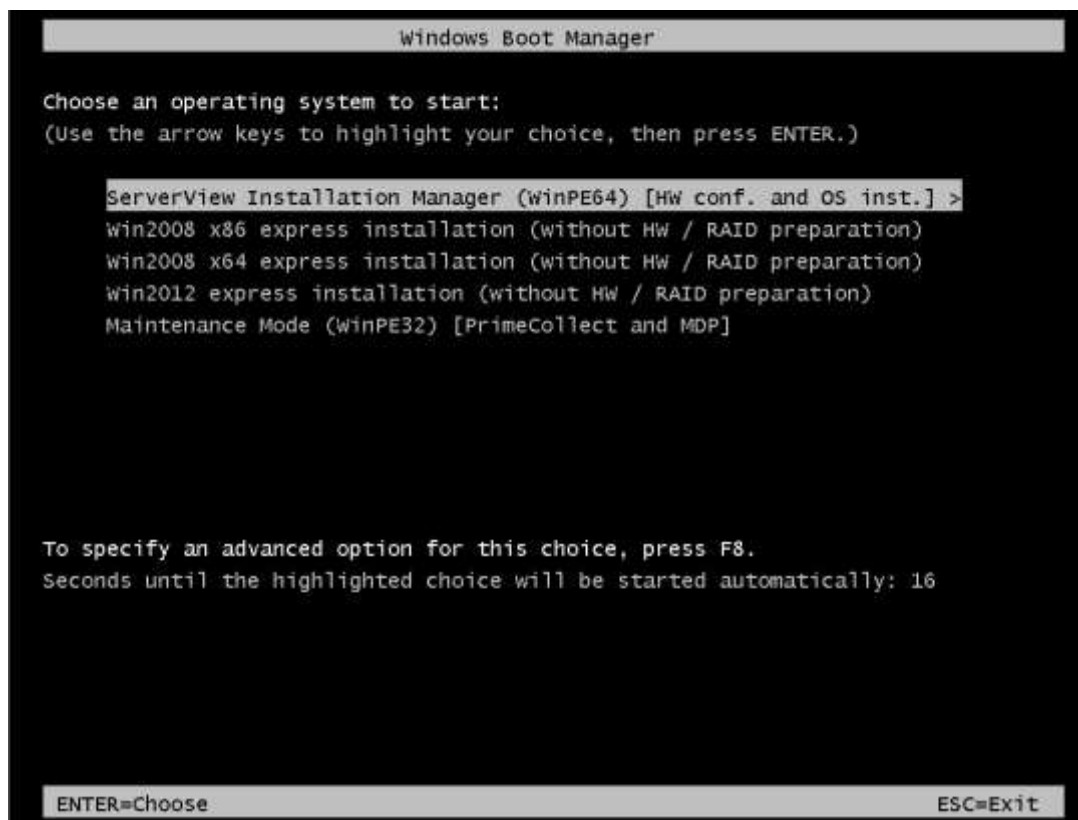


図 2-1 Windows Boot Manager

5. 言語選択画面で、[Japanese] をクリックします。



図 2-2 言語選択

6. 初期画面では何も設定せずに、[次へ] をクリックします。

7. [ようこそ ServerView Installation Manager へ] 画面で、[Deployment] をクリックします。



図 2-3 ようこそ ServerView Installation Manager へ

8. [Installation Manager Deployment Process Selection] 画面で、[ガイドモード] を選択し、[次へ] をクリックします。



図 2-4 Installation Manager Deployment Process Selection

9. [オペレーティングシステムの選択] 画面で、OS を選択します。

1. 既存の構成を利用しない場合は、[新規にコンフィギュレーションファイルを作成する。] を選択します。

2. OSの種別に [Hypervisor]、ディストリビューションに [VMware ESX] を選択し、使用するバージョンとマイナー番号を選択します。
3. [次へ] をクリックします。

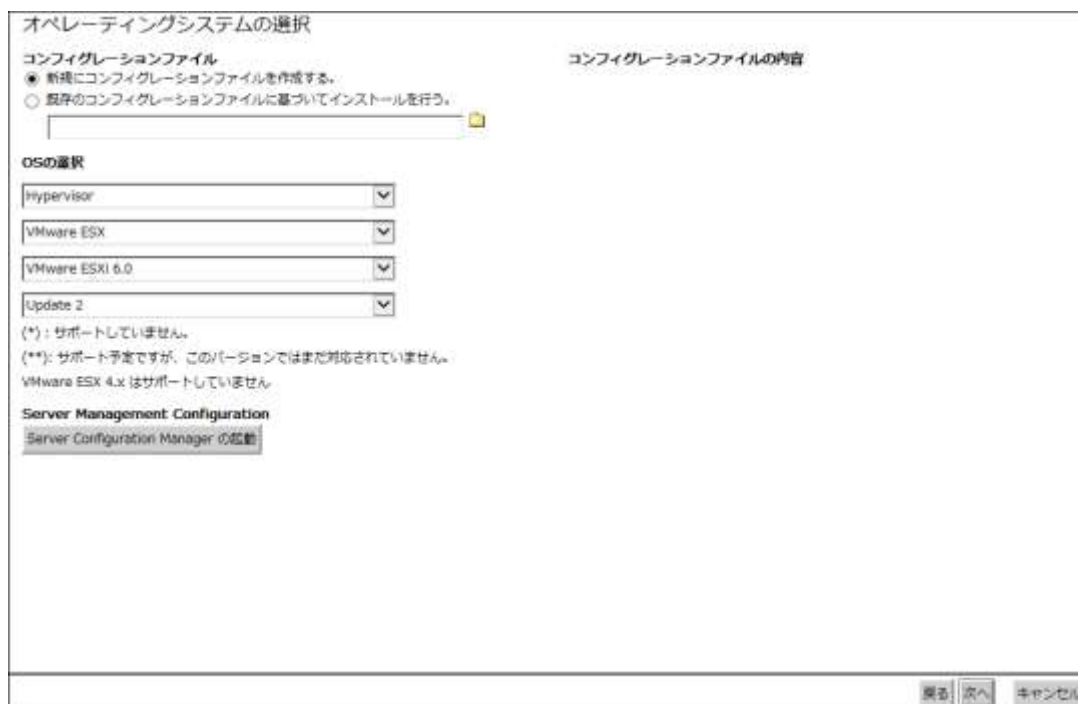


図 2-5 オペレーティングシステムの選択

10. [RAID とディスクの構成] 画面で、[次へ] をクリックします。

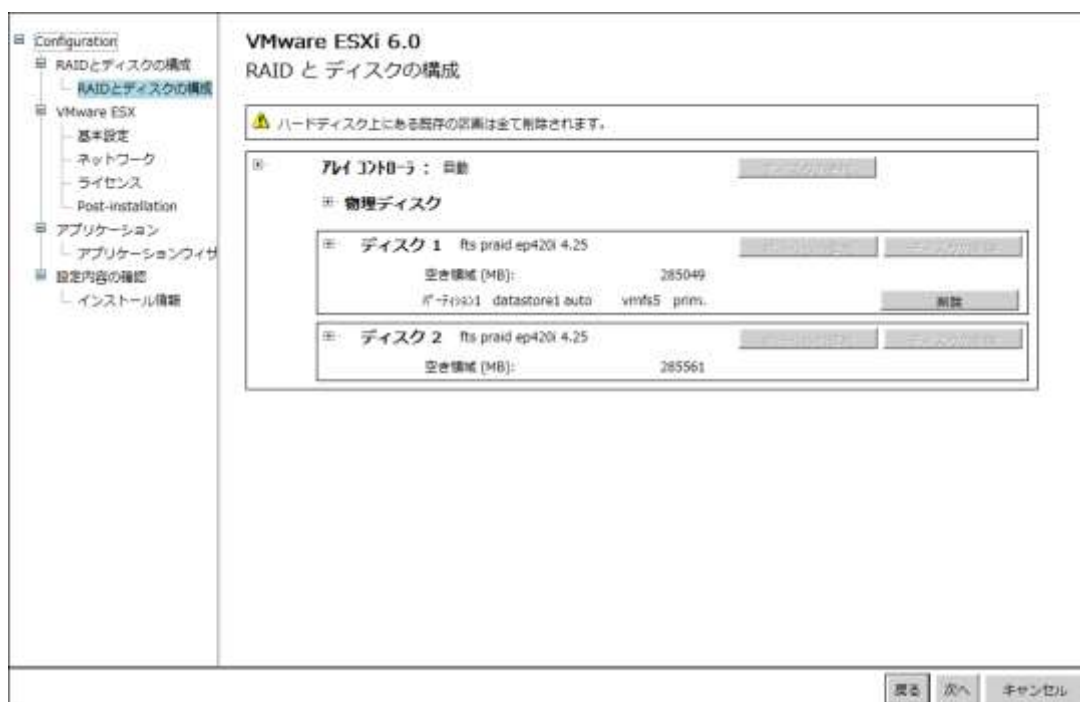


図 2-6 RAID とディスクの構成

11. [基本設定] 画面で、VMware ESX の基本設定をします。

1. [基本情報] の [キーボード] で、 [Japanese] を選択します。
2. [パスワード] に root パスワードを入力します。

注意

パスワードは英大文字、英小文字、数字、特殊文字（アンダースコア、ダッシュなど）の 4 つの文字クラスを組み合わせて作成してください。

また、以下の要件を満たしている必要があります。なお、先頭に英大文字を使用した場合は、使用する文字クラスとして数えません。

- 1 つまたは 2 つの文字クラスを使用するパスワードの場合、8 文字以上で設定する
- 3 つの文字クラスを使用するパスワードの場合、7 文字以上で設定する
- 4 つの文字クラスを使用するパスワードの場合、6 文字以上で設定する

3. [次へ] をクリックします。



図 2-7 基本設定

12. [ネットワーク] 画面で、以下の設定をします。

1. [VM の標準ネットワークでセットアップする] にチェックが入っていることを確認します。
2. [DNS からホスト名を取得] のチェックを外します。
3. [ホスト名] 欄に ESXi のホスト名を入力します。
4. [DHCP で全てのネットワークデバイスを設定] のチェックが外れていることを確認します。
5. [ネットワークデバイス] を選択し、[ネットワークタイプ] を選択します。
[固定 IP] を選択した場合は、[IP アドレス]、[ネットマスク]、[ゲートウェイ]、[ネームサーバ] に、それぞれ使用するアドレスを入力します。
6. [次へ] をクリックします。



図 2-8 ネットワーク

13. [VMware Licence Options] 画面で、[使用許諾契約書の条項に同意します] をチェックし、[次へ] をクリックします。
14. [Post Installation Script] 画面で、デフォルト値のまま [次へ] をクリックします。
15. [アプリケーションウィザード] 画面で、[次へ] をクリックします。

16. [設定内容の確認] 画面で、設定内容を確認し、[インストール開始] をクリックします。
自動インストールが開始されます。



図 2-9 設定内容の確認

17. [CD/DVD リダイレクション停止] 画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。
メディアの接続が切断されます。
18. [ネットワークドライブの指定] 画面が表示された状態で、以下の手順で ESXi のメディアに接続します。
ESXi のインストールが開始されます。
1. ビデオリダイレクションの [メディア] → [仮想メディアウィザード...] をクリックします。
 2. ESXi のメディアをドライブに追加し、接続します。

3. [ローカルドライブからインストールする] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

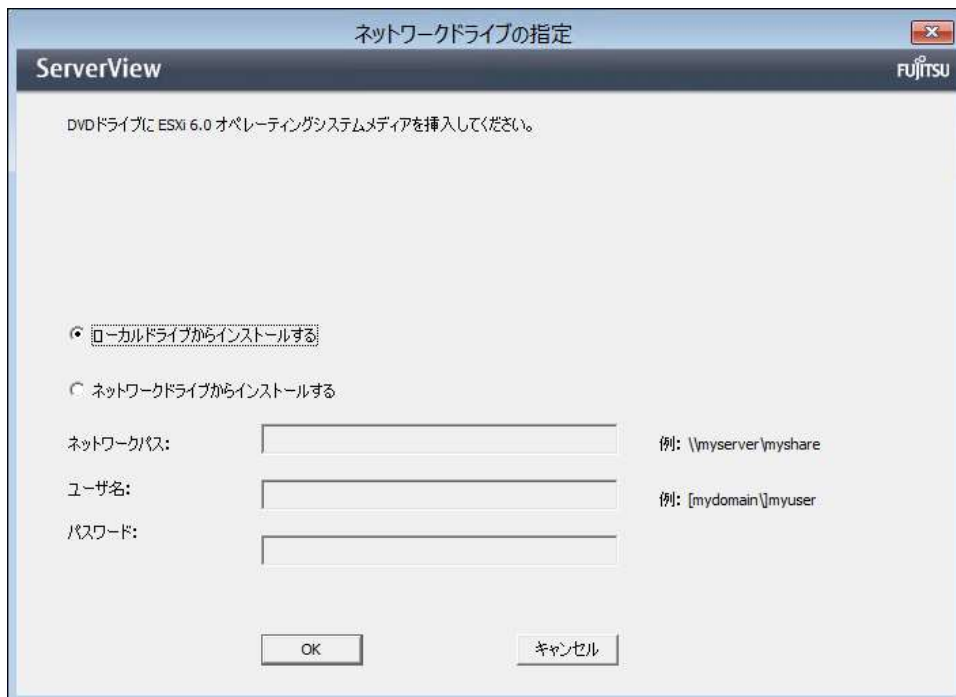


図 2-10 ネットワークドライブの指定

19. 以下の画面が表示されたら、ビデオリダイレクションの [メディア] → [仮想メディアウィザード...] で DVD ドライブを切断してから、[OK] をクリックします。



図 2-11 メディアの取出し

再起動後、ESXi の構築が完了すると、初期画面が表示されます。

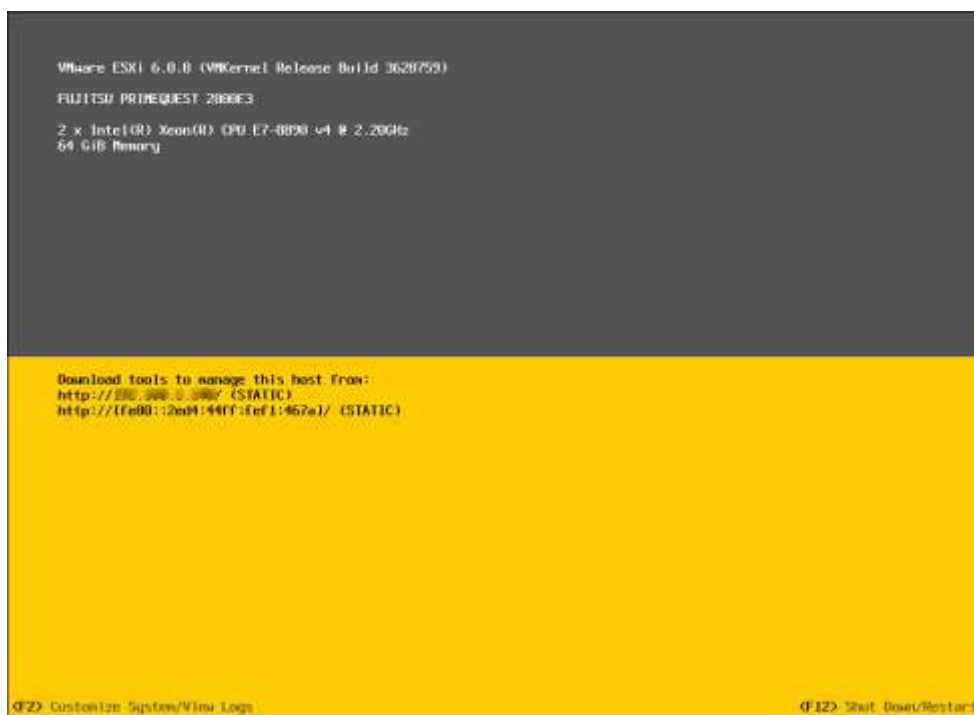


図 2-12 ESXi 初期画面

2.2 管理クライアント PC のインストール

管理クライアント PC に、VMware の管理ソフトをインストールします。

2.2.1 事前準備

以下の条件を満たした PC を事前に準備してください。

▶ ハードウェア条件

ハードウェア	条件
CPU	1.0GHz 以上を推奨
メモリ	1GB 以上を推奨
ハードディスク	1.5GB 以上の空き容量 (%temp% ディレクトリがあるドライブに 400MB の空き容量が必要) ※Microsoft .NET 3.5 SP1 および Microsoft Visual J#がインストール済みの場合は、vSphere Client には 450MB の空き容量、%temp% ディレクトリがあるドライブに 300MB の空き容量が必要。
ネットワーク	ギガビット接続を推奨

▶ ソフトウェア条件

ソフトウェア	条件
OS	本書では Windows 7 を使用しています。 サポートされている最新のオペレーティング システムの一覧については、(http://www.vmware.com/resources/compatibility) を参照してください。
アプリケーション	JRE、Flash Player、およびブラウザがインストールされていること。 サポートしているアプリケーションの情報については、VMware 社のマニュアルを参照してください。

2.2.2 vSphere Client のインストール

VMware 環境を管理クライアント PC から管理、設定するために vSphere Client をインストールします。

1. vCenter Server のインストールメディアを、管理クライアント PC にセットします。

- 表示された画面左側で、[VMware vSphere Client] を選択し、画面右下の [インストール] をクリックします。

インストーラが自動で起動されない場合は、DVD 内の「autorun.exe」ファイルを起動します。



図 2-13 VMware vCenter インストーラ

- [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 以下の画面で [日本語] を選択し、[OK] をクリックします。

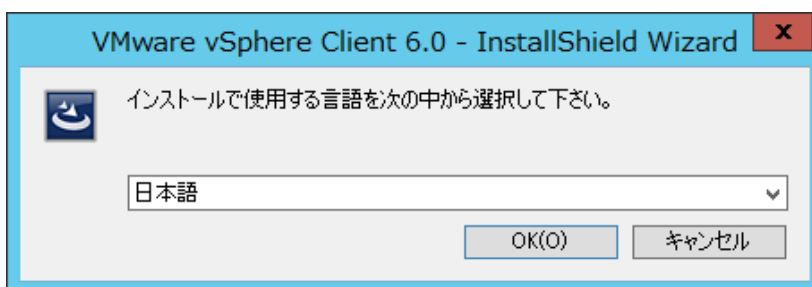


図 2-14 言語選択

5. 以下の画面で、[次へ] をクリックします。



図 2-15 インストールウィザード初期画面

6. [エンドユーザー使用許諾契約書] 画面で、[使用許諾契約書に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

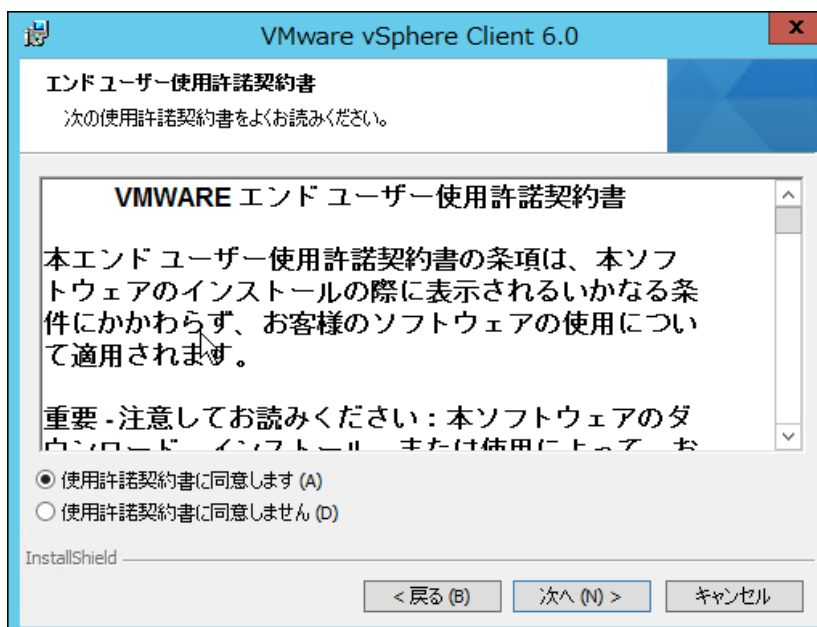


図 2-16 エンドユーザー使用許諾契約書

7. [ターゲットフォルダ] 画面でインストール先を確認し、[次へ] をクリックします。
インストール先を変更する場合は、[変更] をクリックしてインストール先を指定してください。

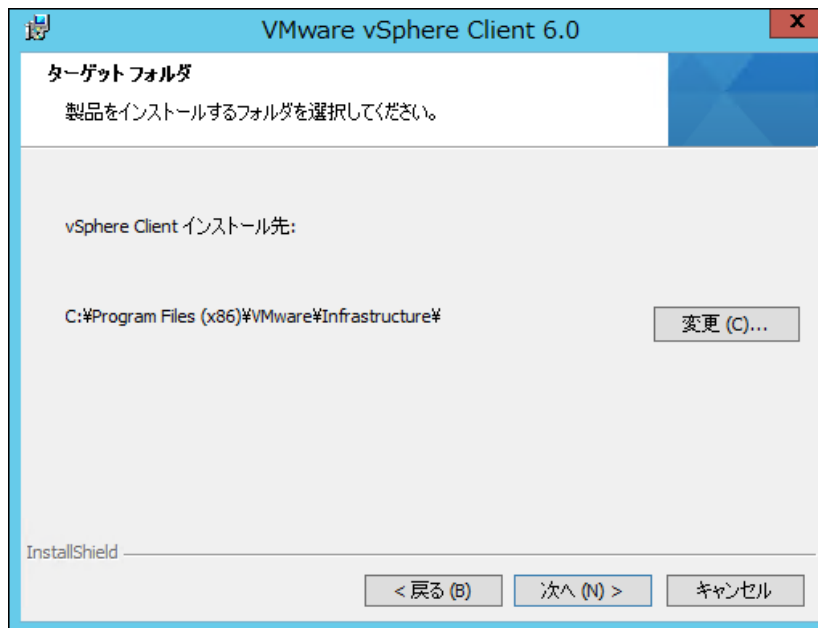


図 2-17 ターゲットフォルダ

8. [プログラムのインストール準備] 画面で、[インストール] をクリックします。
インストールが開始されます。
9. インストールが完了したら、[終了] をクリックします。



図 2-18 インストール完了

10. 手順 2 の VMware vCenter インストーラ画面で、[終了] をクリックします。

11. vCenter Server のインストールメディアを取り出します。

次に、「[2.2.3 vSphere CLI のインストール](#)」を実行してください。

2.2.3 vSphere CLI のインストール

vSphere CLI のインストールを行います。

1. 管理クライアント PC に、vSphere CLI のインストールファイルを格納したメディアをセットします。
2. 「VMware-vSphere-Perl-SDK-6.0.x- <数字>.exe」を実行します。
3. [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
4. インストールウィザードの初期画面で、[Next] をクリックします。

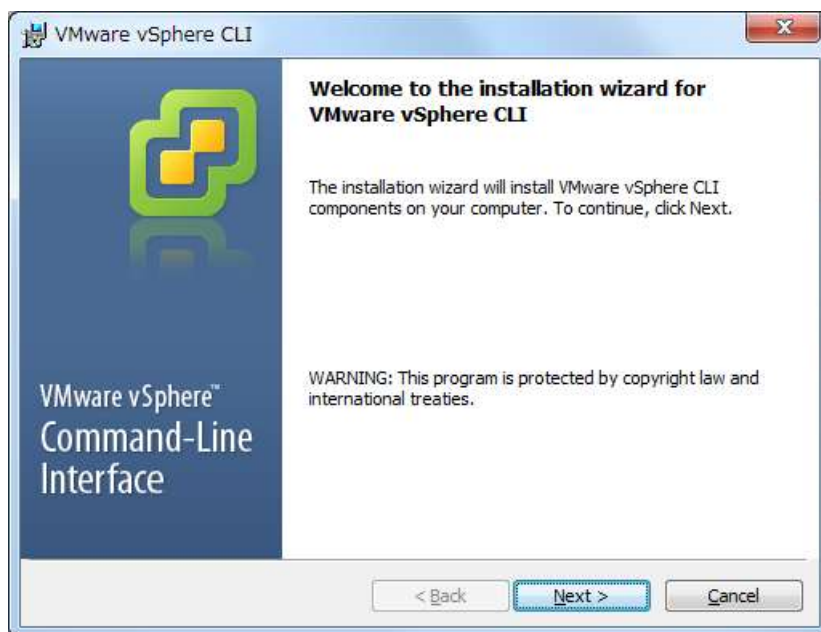


図 2-19

5. インストールウィザード初期画面 [License Agreement] 画面で、[I accept the terms in the license agreement] を選択し、[Next] をクリックします。

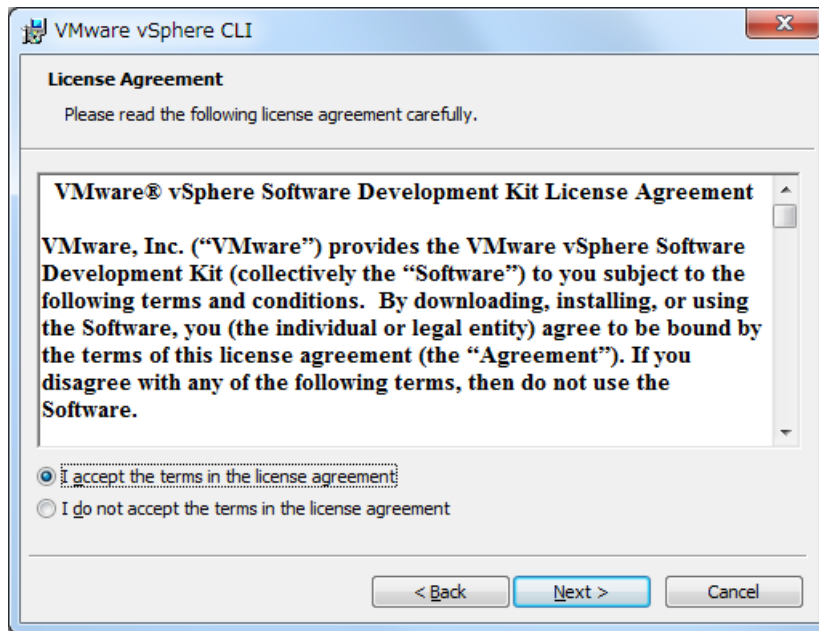


図 2-20 License Agreement

6. [Destination Folder] 画面で、インストール先を確認し、[Next] をクリックします。インストール先を変更する場合は、[Change...] をクリックしてインストール先を指定してください。

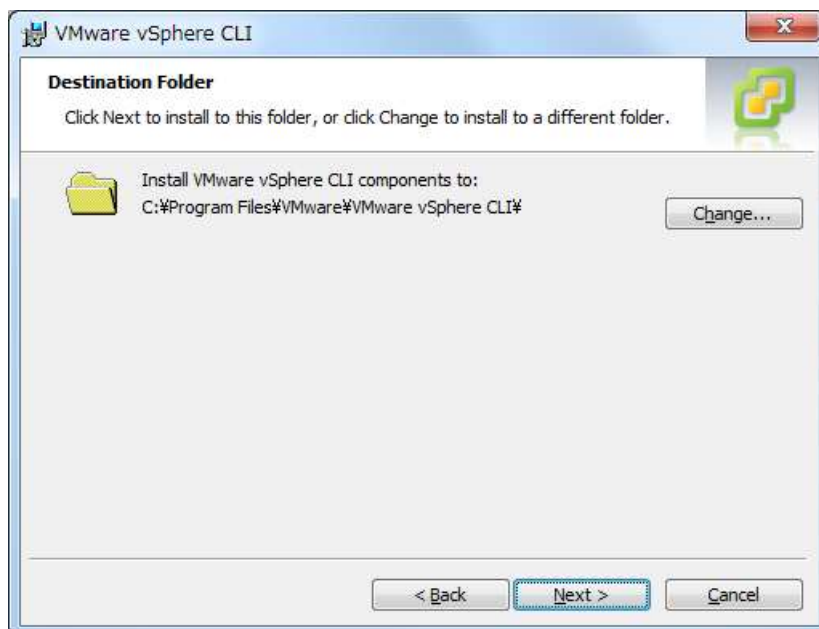


図 2-21 Destination Folder

7. [Ready to Install the VMware vSphere CLI components] 画面で、[Install] をクリックします。
8. インストールが完了したら、[Installation Wizard Completed] 画面で、[Finish] をクリックします。

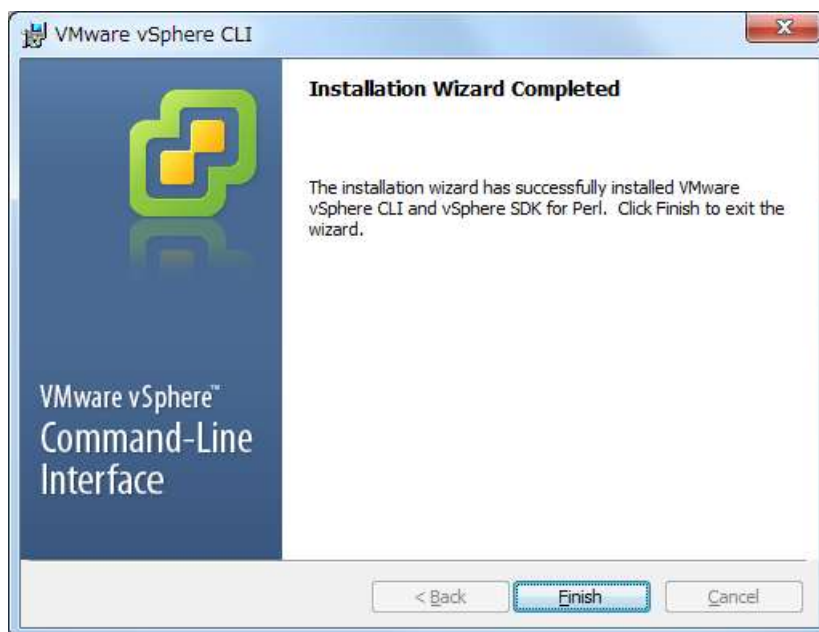


図 2-22 Installation Wizard Completed

9. インストールファイルを格納したメディアを取り出します。

2.3 管理サーバのインストール

2.3.1 事前準備

■ インストール環境の確認

管理サーバとして使用する物理パーティションが、以下の要件を満たしていることを確認してください。

▶ ハードウェア条件

ハードウェア	条件
CPU	64bit、2.0GHz 以上、2 コア以上
メモリ	10GB
ハードディスク	100GB 以上の空き容量を推奨 (vCenter Server インストール後に 40~60GB 以上が必要)

▶ ソフトウェア条件

ソフトウェア	条件
OS	本書では Windows Server 2012 R2 Standard を使用しています。 ・ サポートされている最新のオペレーティング システムの一覧については、 http://www.vmware.com/resources/compatibility にある 『VMware 互換性ガイド』を参照してください。 ・ OS インストール後、以下の設定が必要です。 －ファイアウォールの無効化 －ネットワーク接続 －NTP サーバ設定
アプリケーション	JRE、Flash Player がインストールされていること。

2.3.2 vCenter Server のインストール

VMware 環境の管理サーバを構築するため、PRIMEQUEST のパーティション (管理サーバ用) に vCenter Server をインストールします。

1. 管理サーバ用のパーティションが起動していない場合は、起動します。
2. バーチャルメディアを接続する PC に、vCenter Server のインストールメディアをセットします。
3. ビデオリダイレクションの [メディア] → [仮想メディアウィザード...] で、vCenter Server のインストールメディアをセットしたドライブを接続します。

注意

ビデオリダイレクションを使用するには、コンソール用 PC のブラウザで Java が利用できる環境を整える必要があります。

4. CD/DVD メディアの [CD/DVD メディアに接続] を選択し、[OK] をクリックします。

5. インストーラ画面で、VMware vCenter Server の [Windows 版 vCenter Server] を選択し、画面右下の [インストール] をクリックします。
インストーラが自動で起動されない場合は、DVD 内の autorun.exe ファイルを起動します。



図 2-23 VMware vCenter のインストーラ

6. 以下の画面で、[次へ] をクリックします。



図 2-24 インストールウィザード初期画面

7. [使用許諾契約書] 画面で、[使用許諾契約書に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。



図 2-25 使用許諾契約書

8. [デプロイタイプの選択] 画面で、[組み込みデプロイ] を選択し、[次へ] をクリックします。



図 2-26 デプロイタイプの選択

9. [システムネットワーク名] 画面で、システム名を設定し、[次へ] をクリックします。

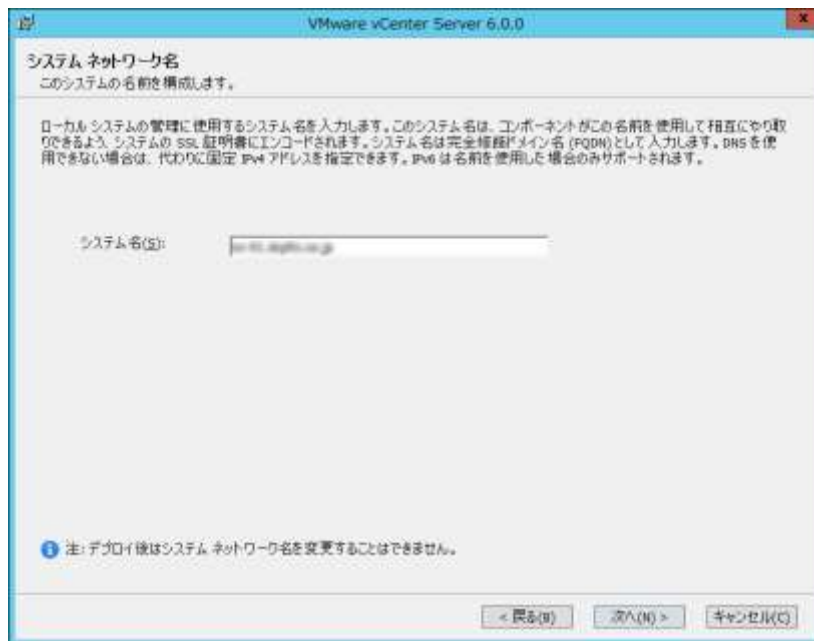


図 2-27 システムネットワーク名

10. [vCenter Single Sign-On 構成] 画面で、[新しいvCenter Single Sign-On ドメインを作成する] を選択し、ドメイン名、パスワード、サイト名を入力し、[次へ] をクリックします。

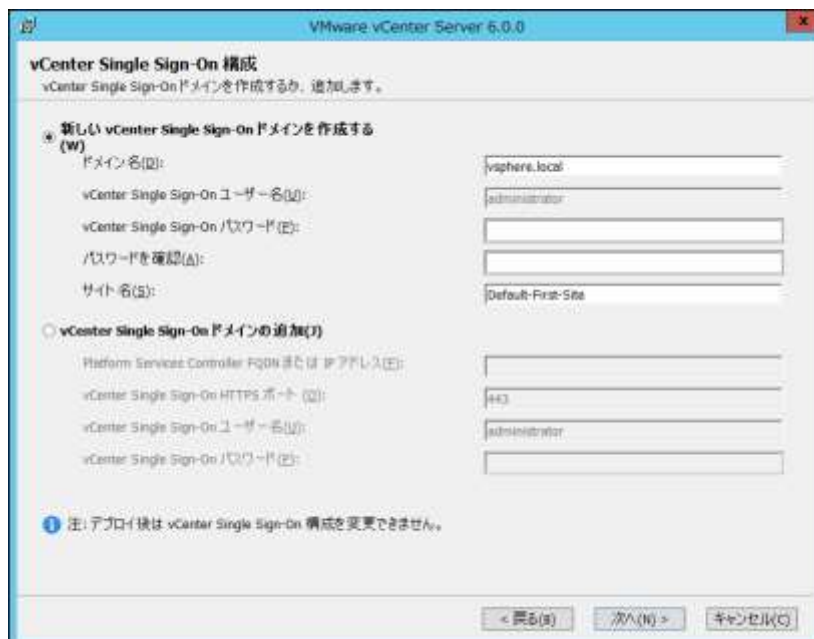


図 2-28 vCenter Single Sign-On 構成

11. [vCenter Service サービスアカウント] 画面で、[Windows ローカルシステムアカウントを使用]を選択し、[次へ] をクリックします。

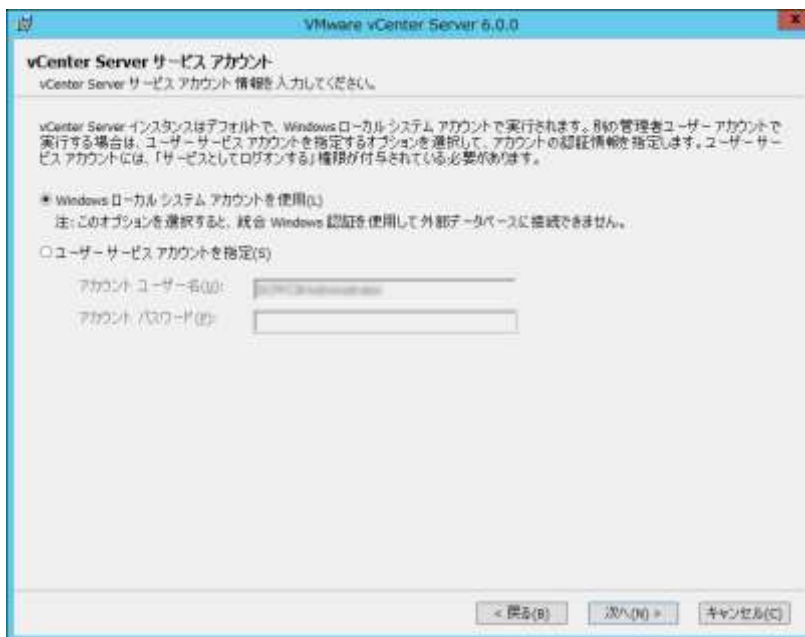


図 2-29 vCenter Service サービスアカウント

12. [データベース設定] 画面で、[組み込みデータベースを使用 (vPostgres)]を選択し、[次へ] をクリックします。

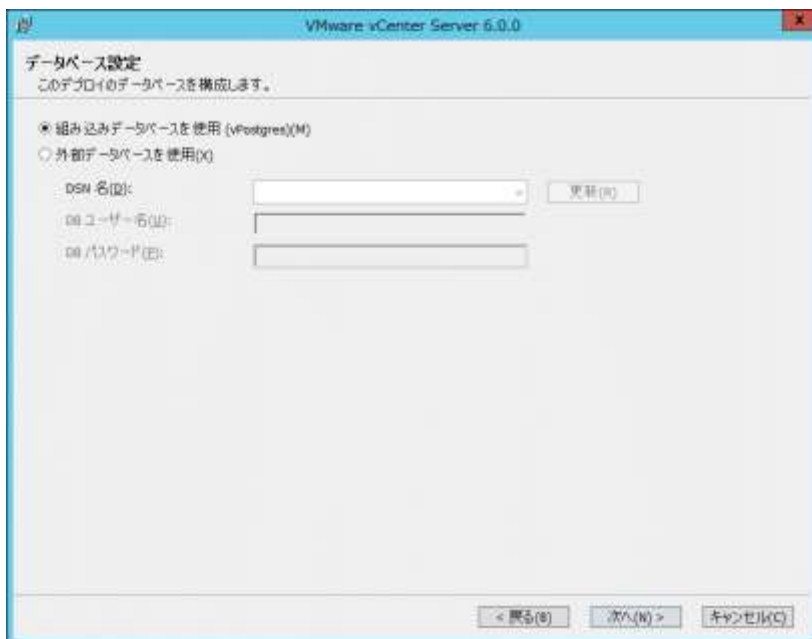


図 2-30 データベース設定

13. [ポートの構成] 画面で、各項目を入力し、[次へ] をクリックします。必要なポート番号の詳細については、VMware 社のマニュアルを参照してください。



図 2-31 ポートの構成

14. [ターゲットディレクトリ] 画面で、デプロイの保存場所を確認し、[次へ] をクリックします。

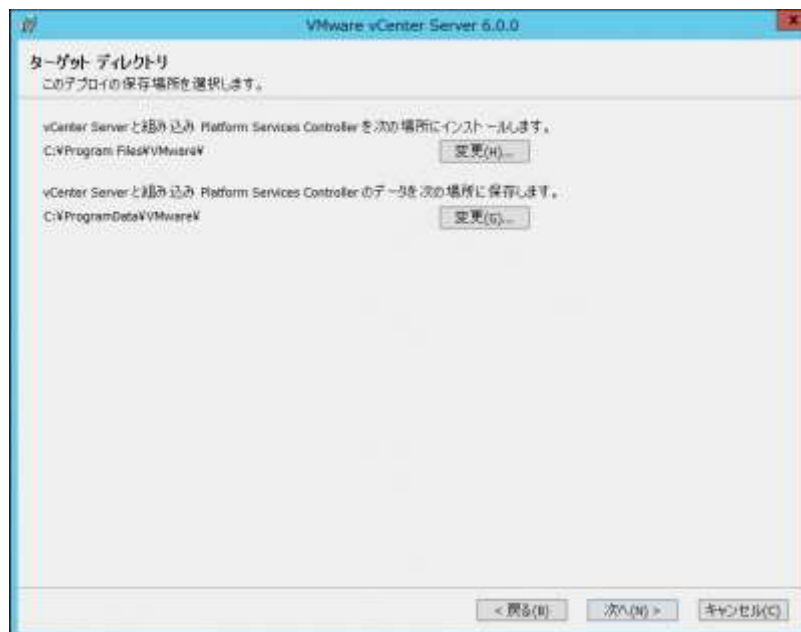


図 2-32 ターゲットディレクトリ

15. [インストールの準備完了] 画面で、[インストール] をクリックします。
16. [セットアップの完了] 画面で、[完了] をクリックします。



図 2-33 セットアップの完了

17. バーチャルメディアでインストールメディアを切断します。

2.4 インストール後の設定と確認

仮想マシン作成の前に、管理クライアント PC から実施する作業を以下に示します。

設定項目	参照先
クライアント統合プラグインツールのインストール	2.4.1 クライアント統合プラグインのインストール
ホストのネットワーク詳細設定	
VMware vSphere Client の接続	
NTP 設定	
テンポラリ領域の設定	
LAN の設定	
ソフトウェアのアップデート	2.4.3 ソフトウェアのアップデート
管理情報・構成情報の保存	2.4.5 管理情報・構成情報の保存
セキュリティの設定	2.4.6 セキュリティの設定

2.4.1 クライアント統合プラグインのインストール

vSphere Web Client から仮想マシンコンソールにアクセスするため、クライアント統合プラグインをインストールします。

1. 管理クライアント PC でブラウザ（本書では Internet Explorer）を起動し、以下の URL に接続します。

```
https://<vSphere 管理サーバ名>.<DNS サフィックス>:9443/vsphere-client
```

2. 以下の画面が表示された場合、[このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)] をクリックします。



図 2-34 セキュリティ警告画面 (Internet Explorer)

3. 以下の画面で、[クライアント統合プラグインをダウンロードしてください] をクリックします。

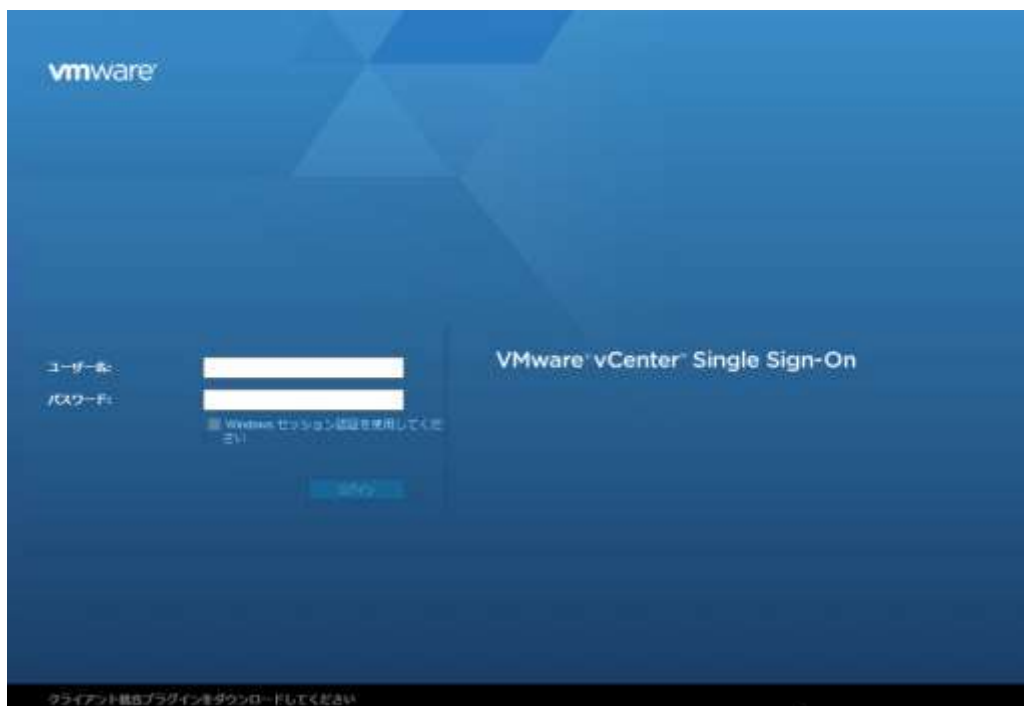


図 2-35 Web Client 初期画面

4. 以下の画面で、[保存] をクリックし、管理クライアント PC の任意のフォルダに「VMware-ClientIntegrationPlugin-<VMware のバージョン>.exe」を保存します。



図 2-36 ダウンロードメッセージ

5. 保存した exe ファイルをダブルクリックして実行します。
プラグインのインストーラが起動します。
オフライン環境でご利用の場合は、以降の手順 6 または 7 のいずれかの対策手順を実施してください。
6. 【Web Client のリンク先を利用してインストールする場合】
1. 上記手順 3 の画面で、[クライアント統合プラグインをダウンロードしてください] を右クリックします。
 2. リンク先の URL をコピーします。
 3. オンライン環境へ移り 2. でコピーした URL へ接続して、クライアント統合プラグインのインストーラをダウンロードします。

4. 3.でダウンロードしたインストーラーを、Web Client に接続するオフライン環境の端末で実行します。
7. 【vCenter Server Appliance のインストールパッケージからインストールする場合】
 1. Web Client に接続するオフライン環境の端末に、vCenter Server Appliance のインストールパッケージを接続します。
 2. vCenter Server Appliance のインストールパッケージを開き、 [vcsa] フォルダを開きます。
 3. 「VMware-ClientIntegrationPlugin-6.X.X.exe」 を実行します。
8. 以下の画面で、 [次へ] をクリックします。

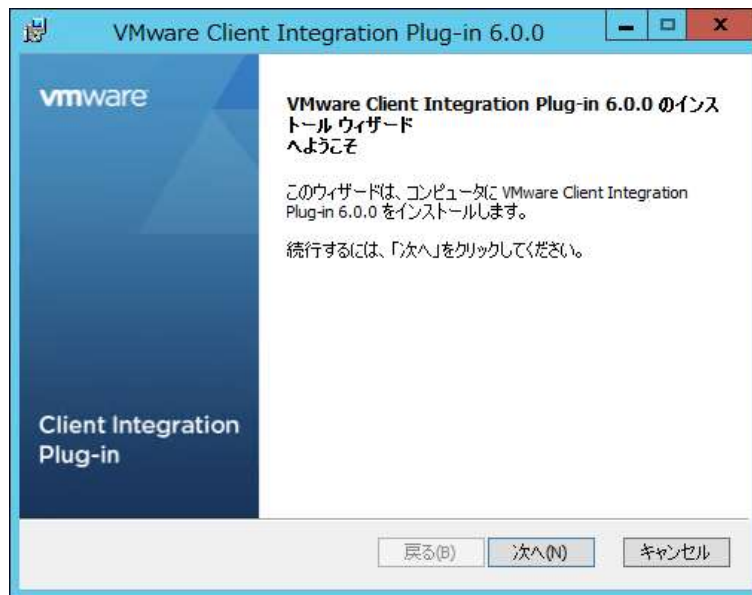


図 2-37 プラグインインストーラ初期画面

9. 「使用許諾契約書」画面で、 [使用許諾契約書に同意します] を選択し、 [次へ] をクリックします。

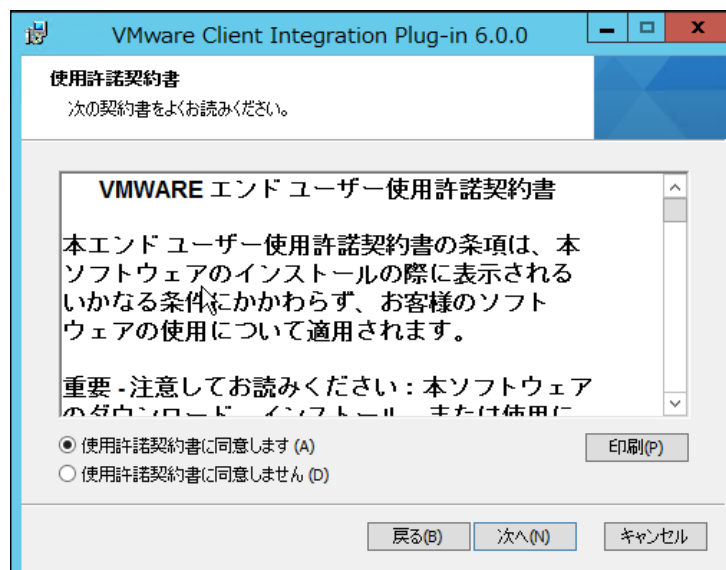


図 2-38 使用許諾契約書

10. [インストール先フォルダー] 画面で、インストール先を確認し、[次へ] をクリックします。
インストール先を変更する場合は、[変更] をクリックしてインストール先を指定してください。

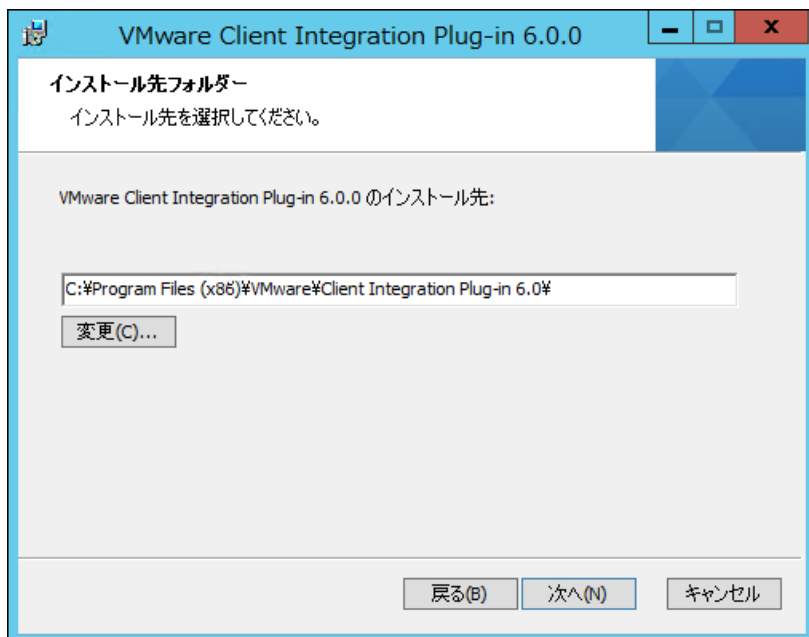


図 2-359 インストール先フォルダー

11. [プラグインをインストールする準備ができました] 画面で、[インストール] をクリックします。

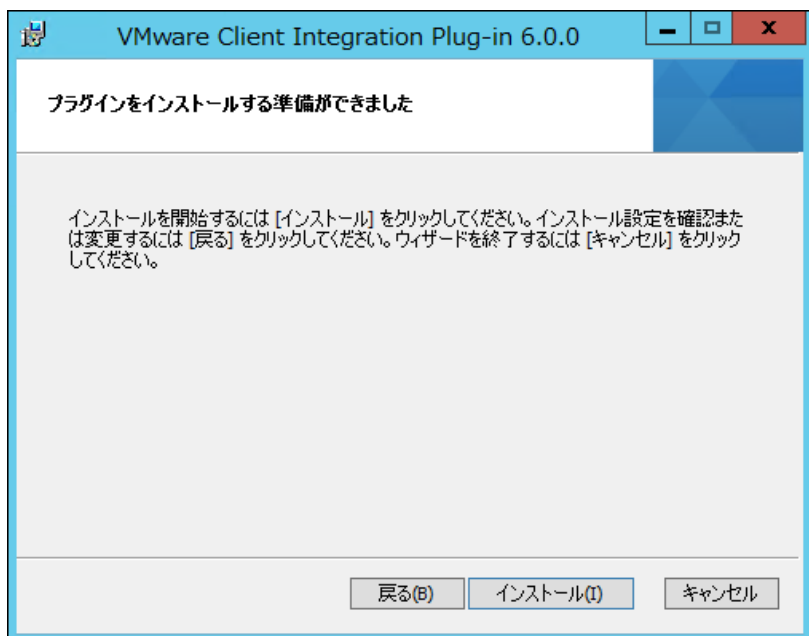


図 2-40 プラグインをインストールする準備ができました

12. [インストールが完了] 画面が表示されたら、[完了] をクリックします。



図 2-41 インストールが完了しました

2.4.2 ネットワーク設定

VMware vSphere Client で、ホストのネットワーク設定をします。

■ VMware vSphere Client の接続

1. 管理クライアント PC で VMware vSphere Client を起動します。

デスクトップ上の [VMware vSphere Client] アイコンをダブルクリックするか、

[スタート] → [すべてのプログラム] → [VMware] → [VMware vSphere Client] をクリックして起動します。

ログイン画面で以下の項目を入力し、[ログイン] をクリックします。

- ホスト (ESXi サーバ) の IP アドレスまたはホスト名
- ユーザー名
- パスワード



図 2-42 vSphere Client

2. [セキュリティ警告] 画面で、[無視] をクリックします。

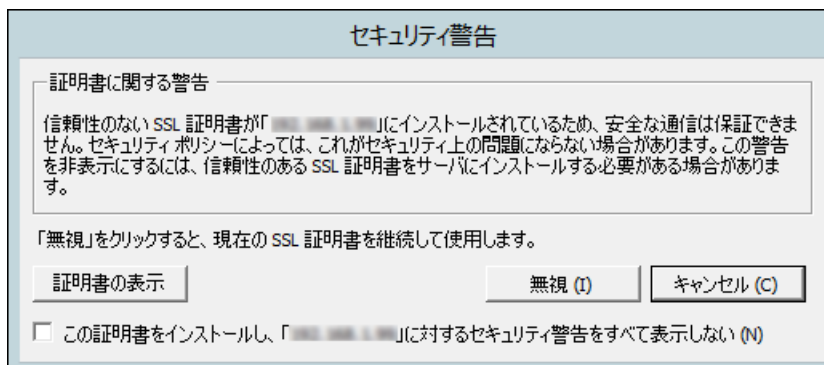


図 2-43 セキュリティ警告

[VMware 評価のお知らせ] 画面で、[OK] をクリックします。

VMware vSphere Client のホスト画面が表示されます。

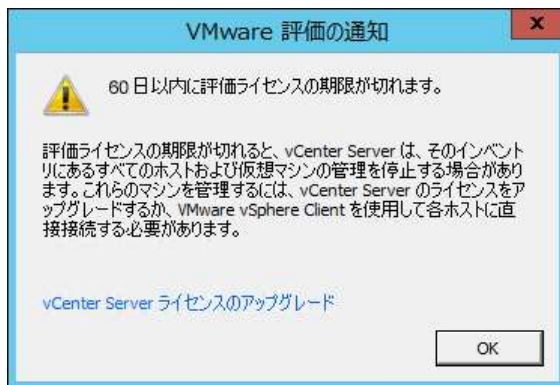


図 2-44 VMware 評価のお知らせ

備考

ESXi のライセンスキーは、「[3.1.1 データセンターの作成とホストの追加](#)」で入力します。

■ NTP 設定

1. 以下の画面で、[インベントリ] アイコンをクリックします。

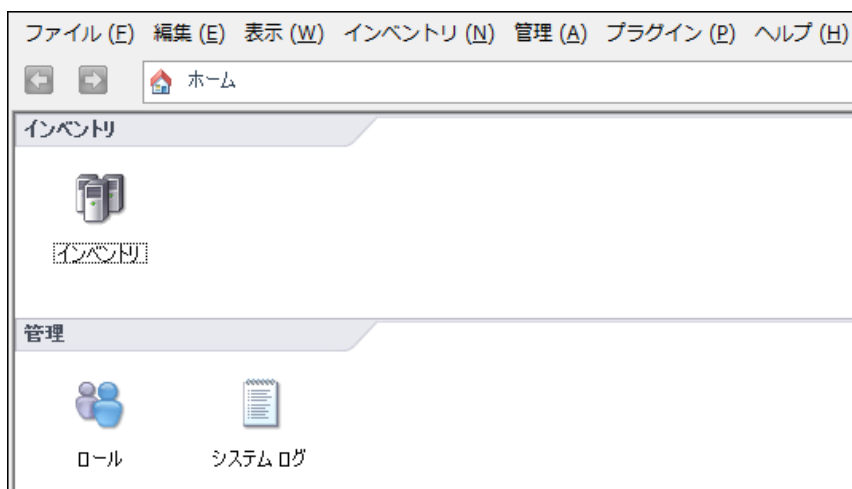


図 2-45 ホスト初期画面

2. [構成] タブを選択します。



図 2-46 構成

3. [ソフトウェア] 欄の [時間の構成] をクリックします。

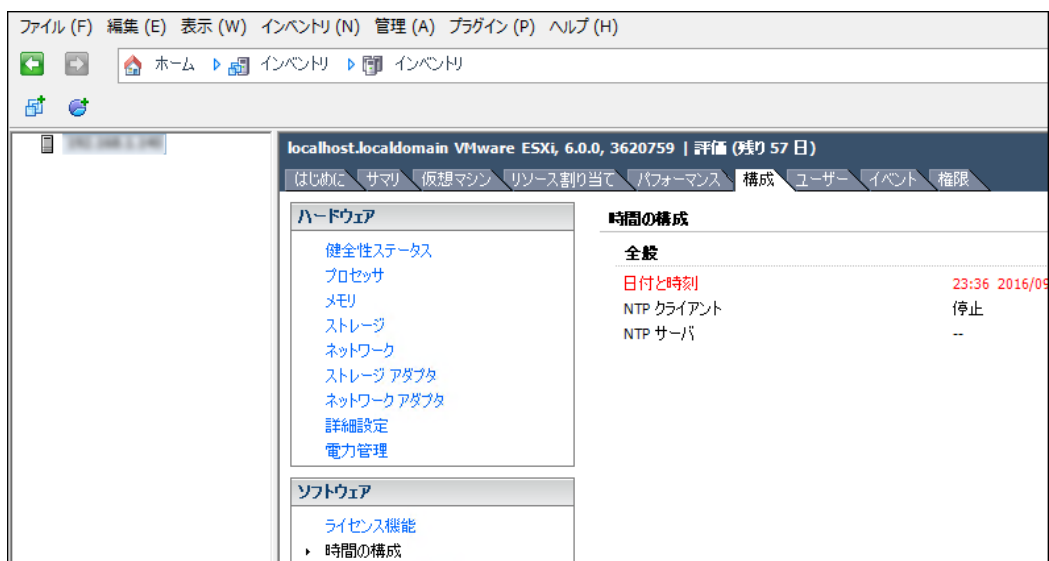


図 2-47 構成—時間の構成

4. 右上の [プロパティ] をクリックします。
5. [時間の構成] のプロパティ画面で、[NTP クライアント使用可能] をチェックし、[オプション] をクリックします。

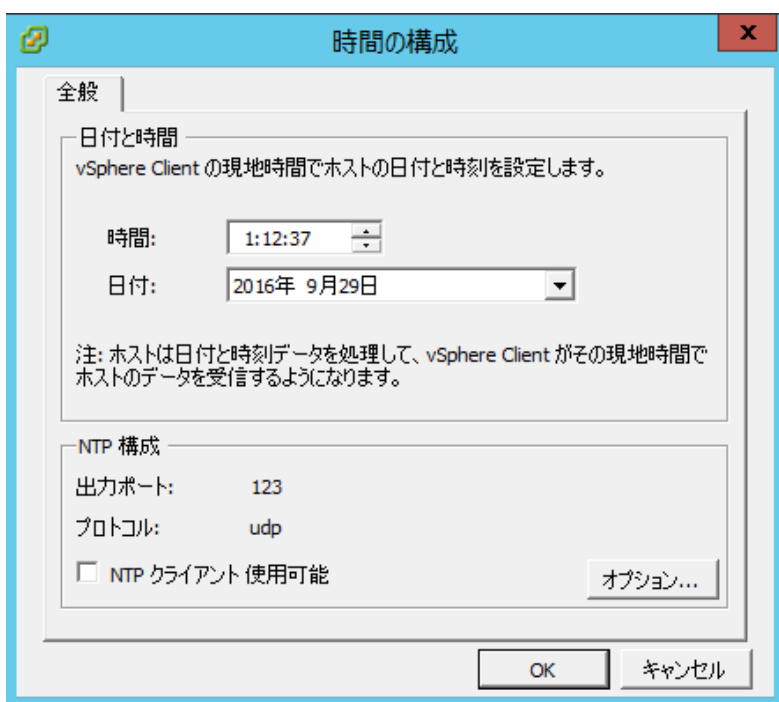


図 2-48 時間の構成 (プロパティ)

6. [NTP デーモン (ntpd) オプション] 画面で、[いずれかのポートが開くと自動的に開始し、すべてのポートが閉じると停止] を選択します。



図 2-49 NTP デーモン (ntpd) オプション (全般)

7. 左の欄から [NTP 設定] を選択し、[NTP サーバ] 欄の [追加] をクリックします。

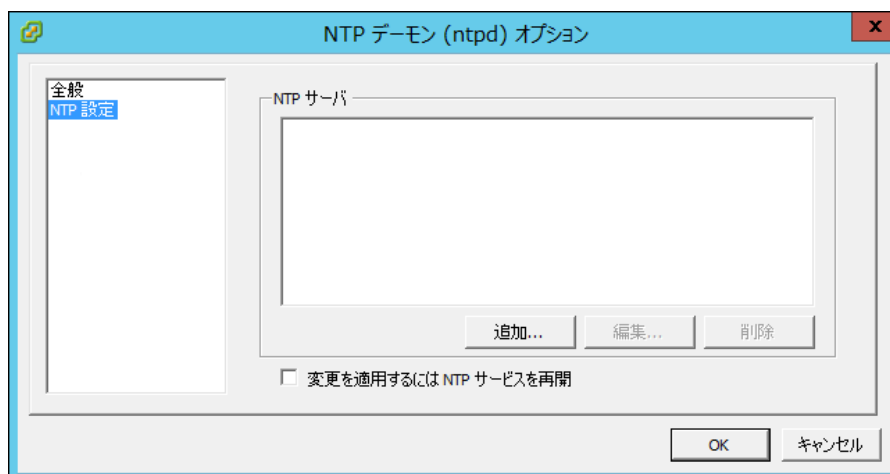


図 2-50 NTP デーモン (ntpd) オプション (NTP 設定)

8. [NTP サーバの追加] 画面で、使用する NTP サーバの IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。

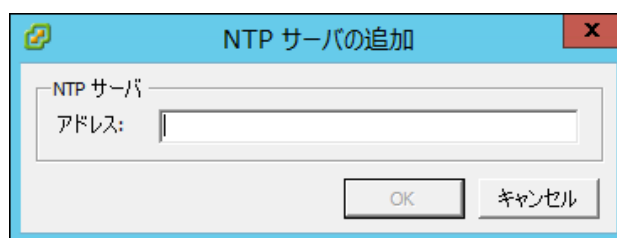


図 2-51 NTP サーバの追加

9. [NTP デーモン (ntpd) オプション] 画面に戻り、[NTP サーバ] 欄に追加した NTP サーバの

IP アドレスが表示されていることを確認します。

10. [変更を適用するには NTP サービスを再開] をチェックし、[OK] をクリックします。



図 2-52 NTP デモン (ntpd) オプション (設定後)

11. [時間の構成] のプロパティ画面で、[OK] をクリックします。
12. [構成] タブで、右上の [更新] をクリックします。
13. [日付と時刻] の内容が正しいこと、[NTP クライアント] が [実行中] になっていること、および [NTP サーバ] が設定されていることを確認します。
同期に数分かかる場合があります。



図 2-53 構成 (NTP 設定後)

■ テンポラリ領域の設定

1. [構成] タブで、[ソフトウェア] 欄の [詳細設定] をクリックします。
2. [詳細設定] 画面の左の欄で、[ScratchConfig] を選択します。

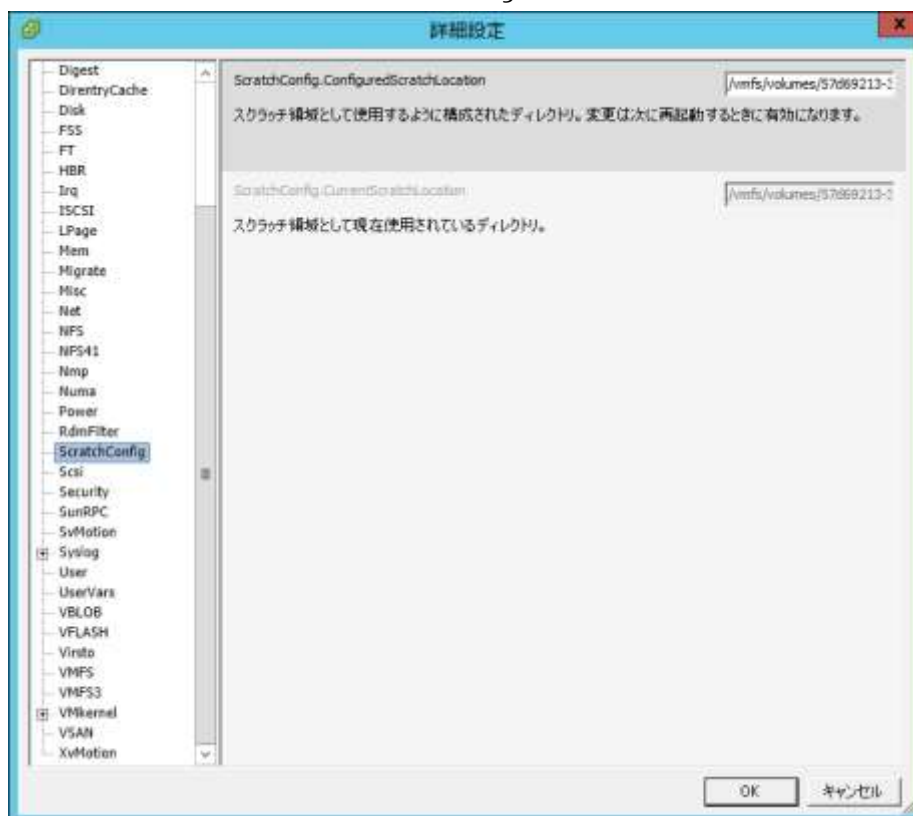


図 2-54 詳細設定

3. [ScratchConfig.ConfiguredScratchLocation] に値が設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

値が設定されていない場合は、以下のサイトから『ソフトウェア説明書』を参照し、テンポラリ領域の設定を行ってください。

[『VMware vSphere 6 ソフトウェア説明書』の公開場所]

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/products/2000/catalog/manual/vmware/>

■ 管理 LAN の設定

管理 LAN として使用する仮想スイッチを設定します。

1. [構成] タブで、[ハードウェア] 欄の [ネットワーク] をクリックします。



図 2-55 構成—ネットワーク

2. 管理 LAN として使用する vSwitch (例では vSwitch0) の画面で、右上の [プロパティ] をクリックします。
3. プロパティ画面で、[ネットワーク アダプタ] タブを選択し、[追加] をクリックします。

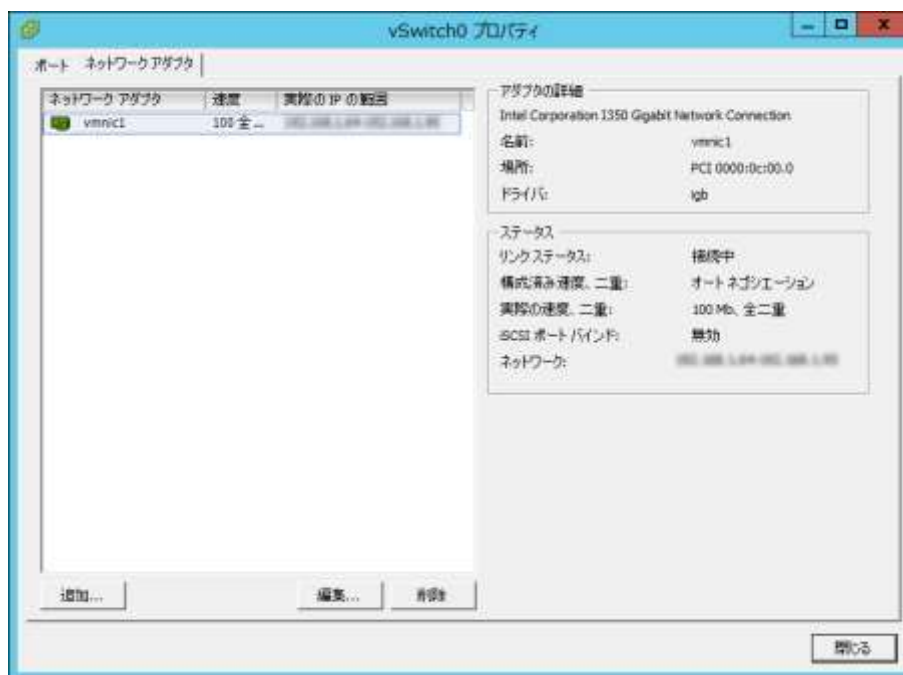


図 2-56 ネットワークのプロパティ

4. [アダプタの選択] 画面で、管理 LAN として追加するアダプタをチェックし、[次へ] をクリックします。

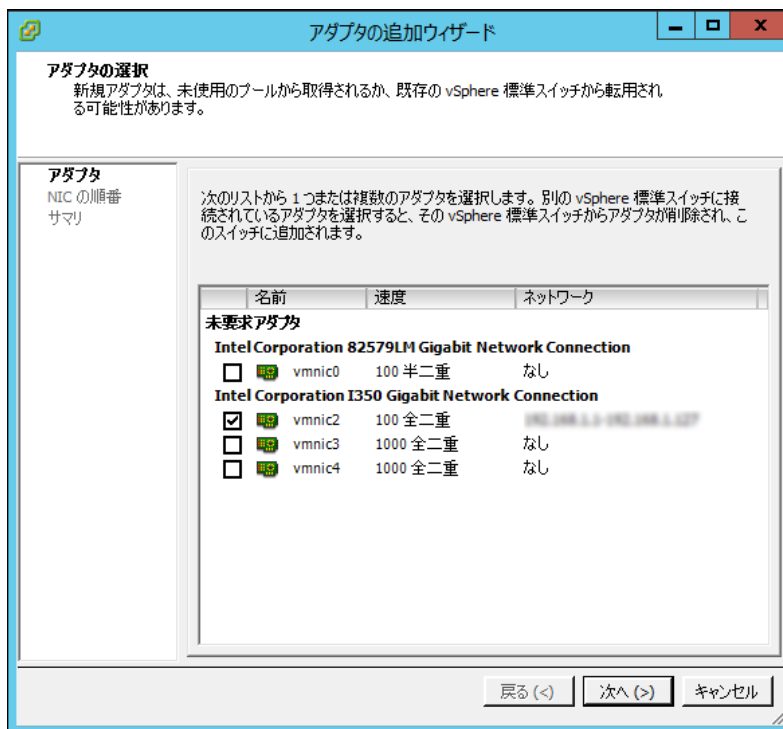


図 2-57 アダプタの選択

5. [フェイルオーバーの順序] 画面で、[有効なアダプタ] と [スタンバイ アダプタ] を設定 (画面例では 1 つずつ) し、[次へ] をクリックします。

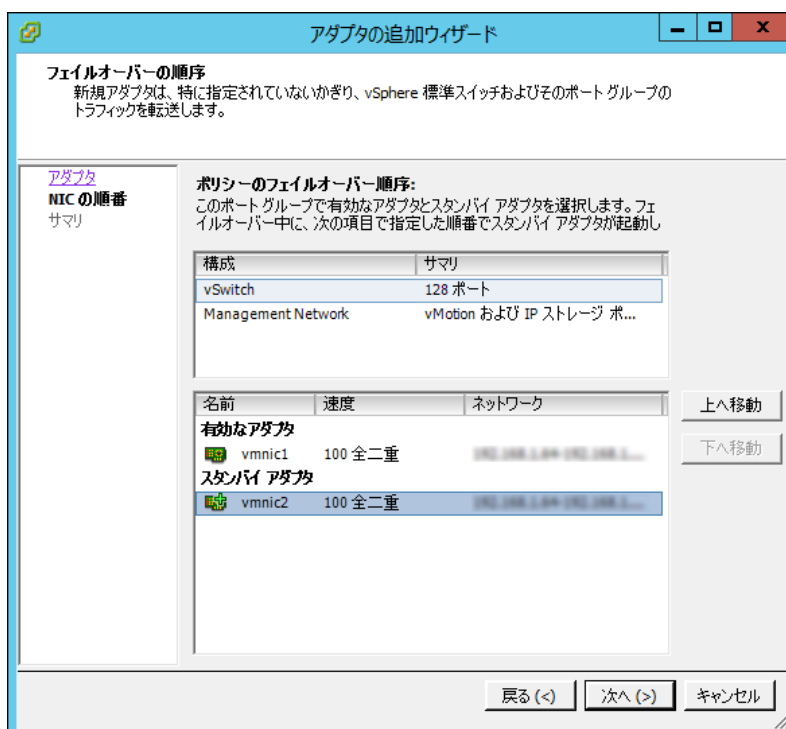


図 2-58 フェイルオーバーの順序

6. [アダプタサマリ] 画面で、追加したアダプタ名が表示されていることを確認し、[終了] をクリックします。

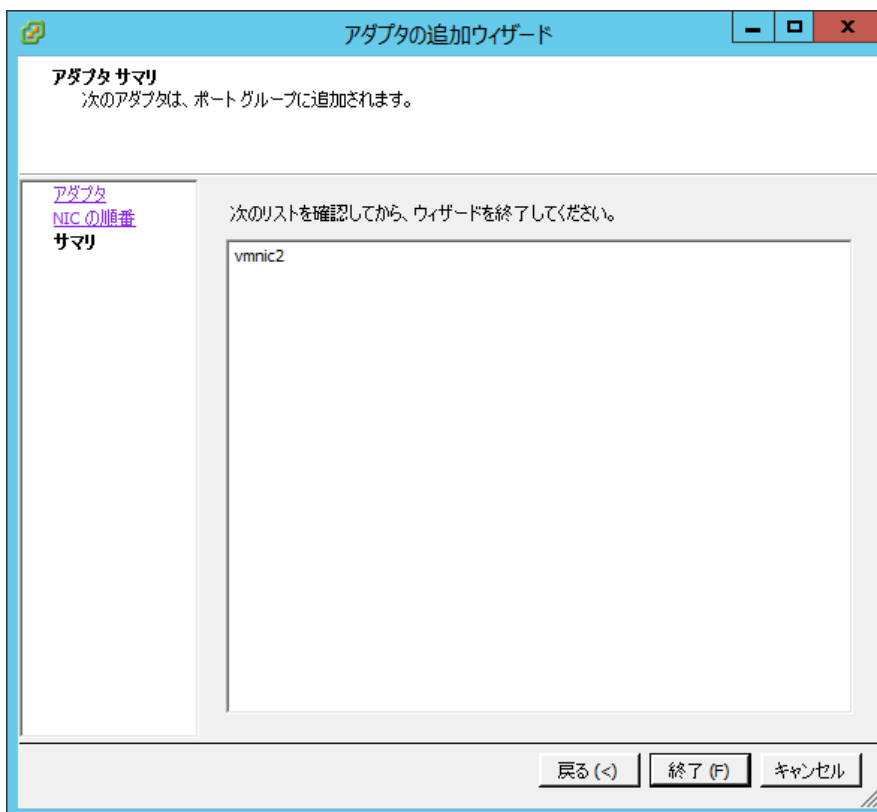


図 2-59 アダプタサマリ

7. [ネットワークアダプタ] タブで、追加したアダプタ名が表示されていることを確認します。



図 2-60 [ネットワークアダプタ] タブ (管理 LAN 設定後)

8. プロパティ画面で、[ポート] タブを選択し、構成一覧から [vSwitch] を選択します。

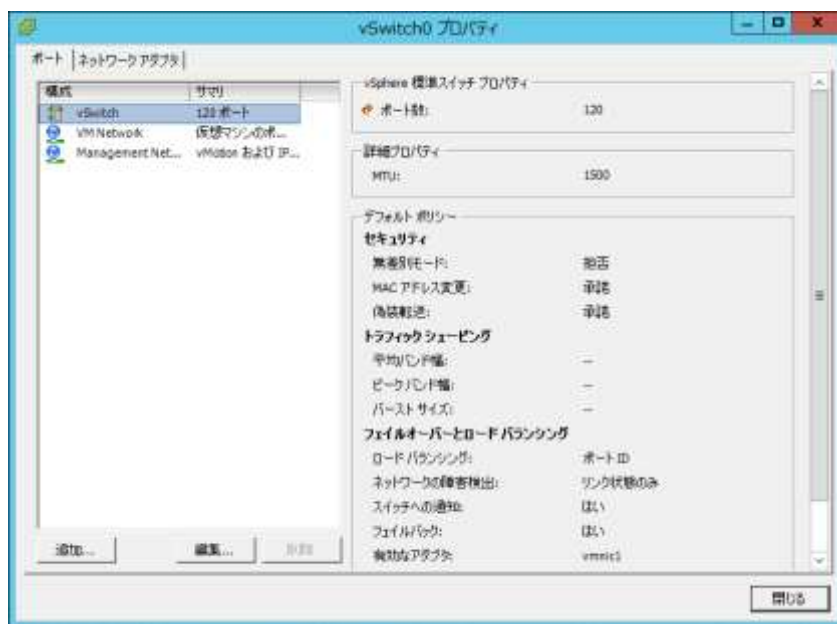


図 2-61 [ポート] タブ (vSwitch)

9. [編集] をクリックします。
10. 表示された画面で、[NIC チーミング] タブを選択します。

11. 以下の設定になっていることを確認し、[OK] をクリックします。

- ネットワークのフェイルオーバー検出：リンク状態のみ
- フェイルバック：はい

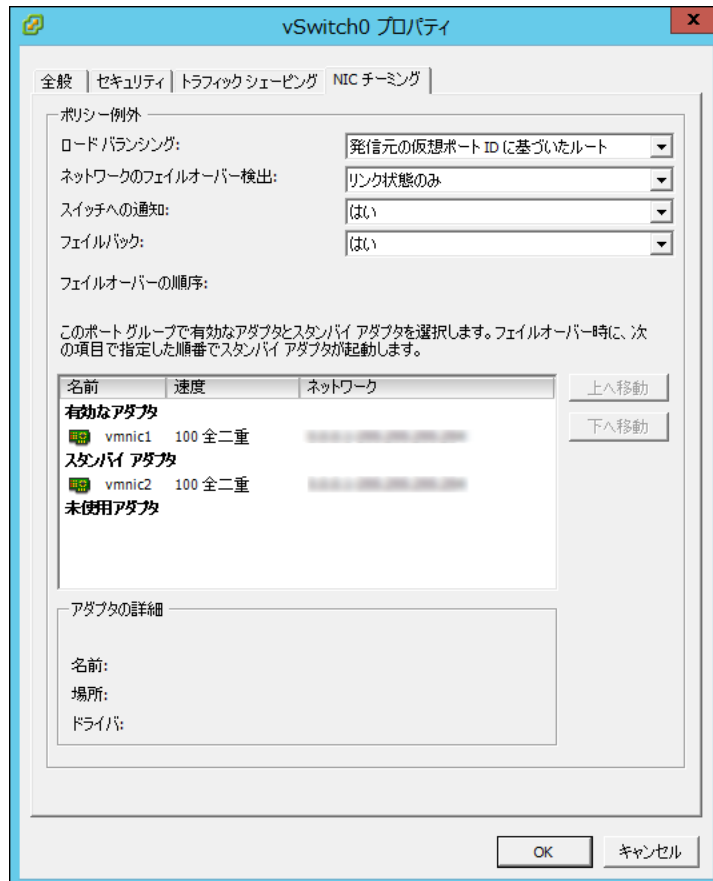


図 2-62 [NIC チーミング] タブ (vSwitch)

12. プロパティ画面で、構成一覧から [VM Network] を選択し、[編集] をクリックします。

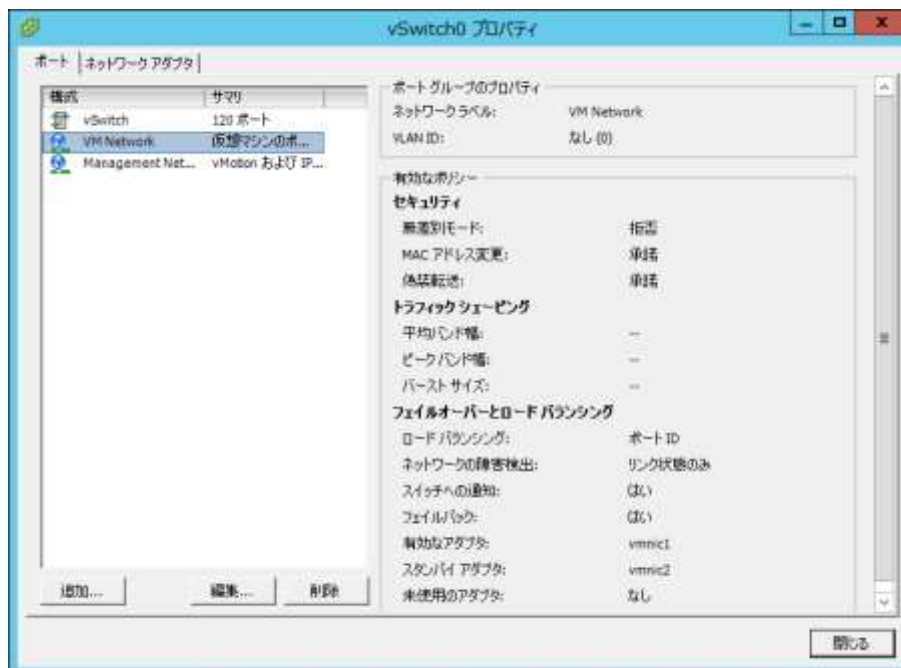


図 2-63 [ポート] タブ (VM Network)

13. 以下の画面で、[ネットワークラベル] を入力し、[OK] をクリックします。

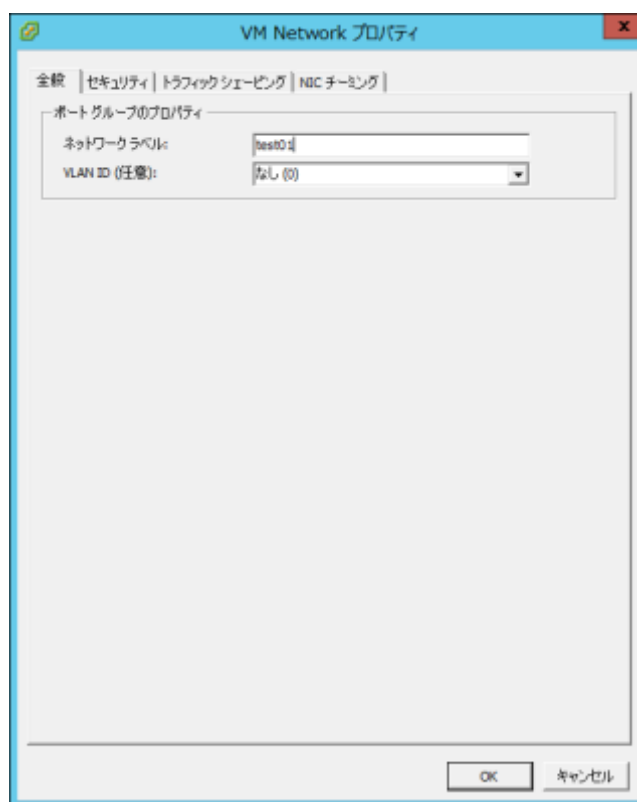


図 2-64 [全般] タブ (VM Network)

14. プロパティ画面に、設定したネットワークラベル名が表示されていることを確認します。

15. 構成一覧から [Management Network] を選択し、[編集] をクリックします。

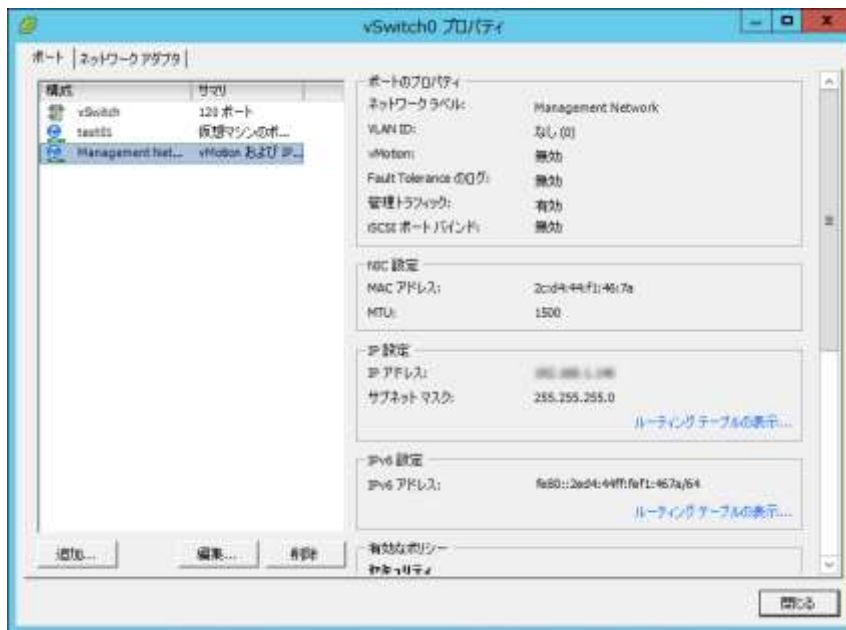


図 2-65 「ポート」 タブ (Management Network)

16. [フェイルバック] を [いいえ] に設定し、[OK] をクリックします。

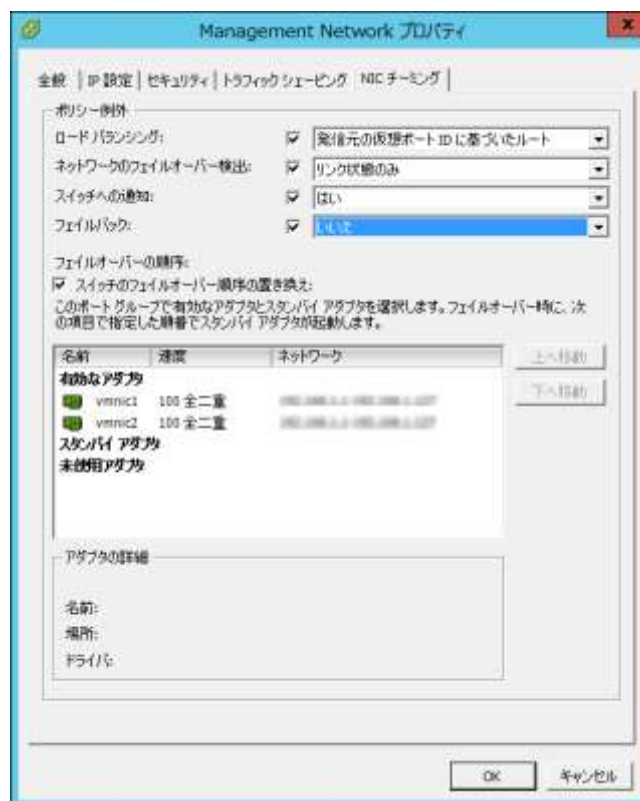


図 2-66 「NIC チューニング」 タブ (Management Network)

17. vSwitch0 プロパティ画面で、[閉じる]をクリックします。

18. [構成] タブのネットワーク画面で、管理 LAN に使用する vSwitch にネットワークアダプタが追加されていることを確認します。



図 2-67 構成—ネットワーク (管理 LAN 設定後)

■ 業務 LAN の設定

業務 LAN として使用する仮想スイッチを設定します。

1. [構成] タブのネットワーク画面で、右上の [ネットワークの追加] をクリックします。
2. [接続タイプ] 画面で、[仮想マシン] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

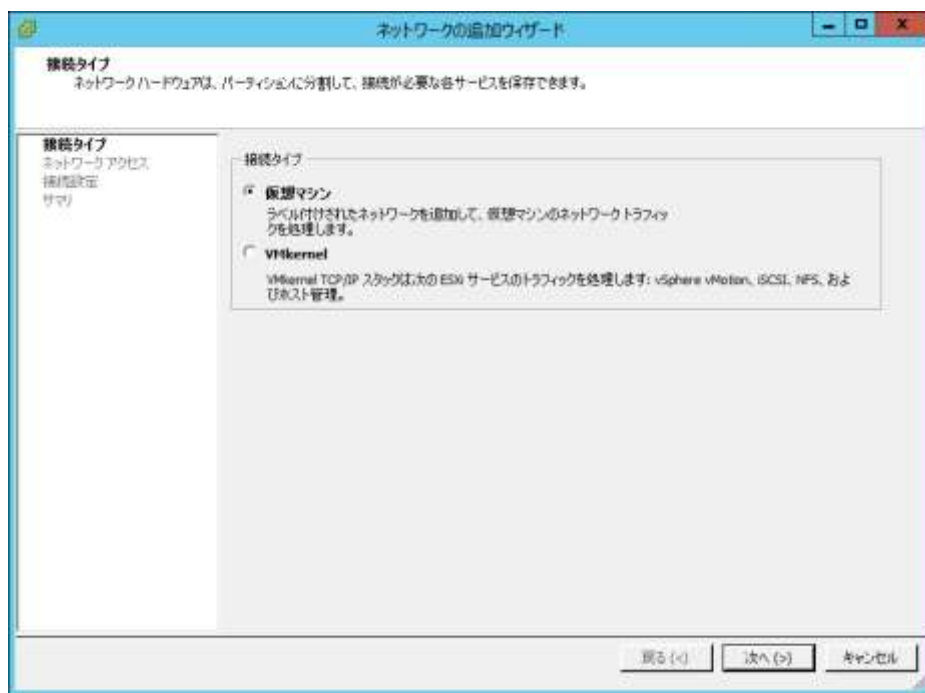


図 2-68 接続タイプ

3. [仮想マシン - ネットワークアクセス] 画面で、以下の設定をして [次へ] をクリックします。
- [vSphere 標準スイッチの作成] を選択
 - リストから業務 LAN として使用するアダプタを選択

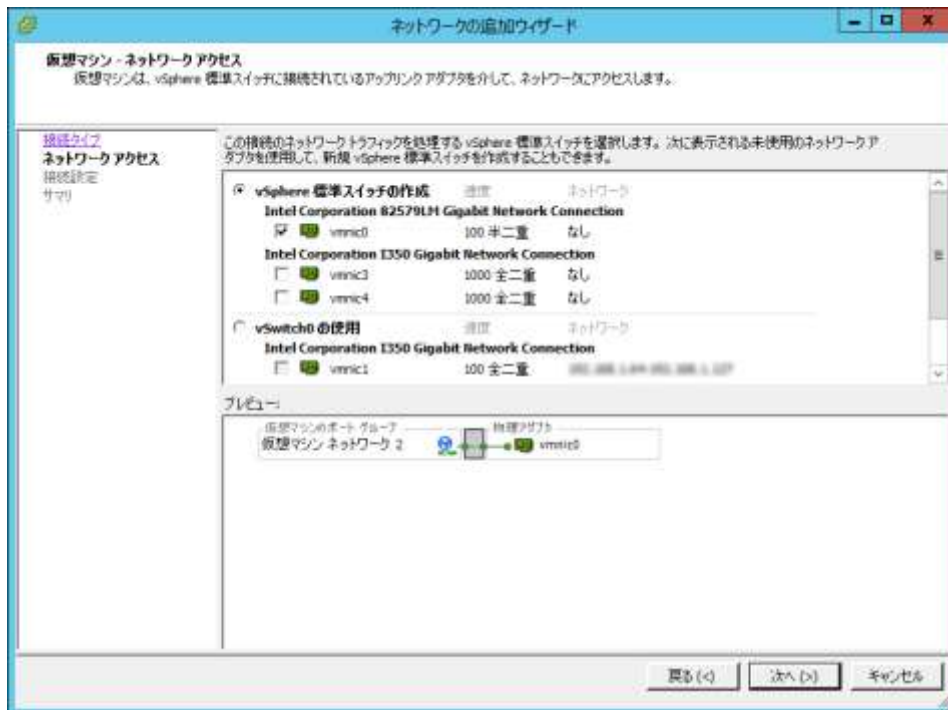


図 2-69 仮想マシン - ネットワークアクセス

4. [仮想マシン - 接続設定] 画面で、[ネットワークラベル] を入力し、[次へ] をクリックします。

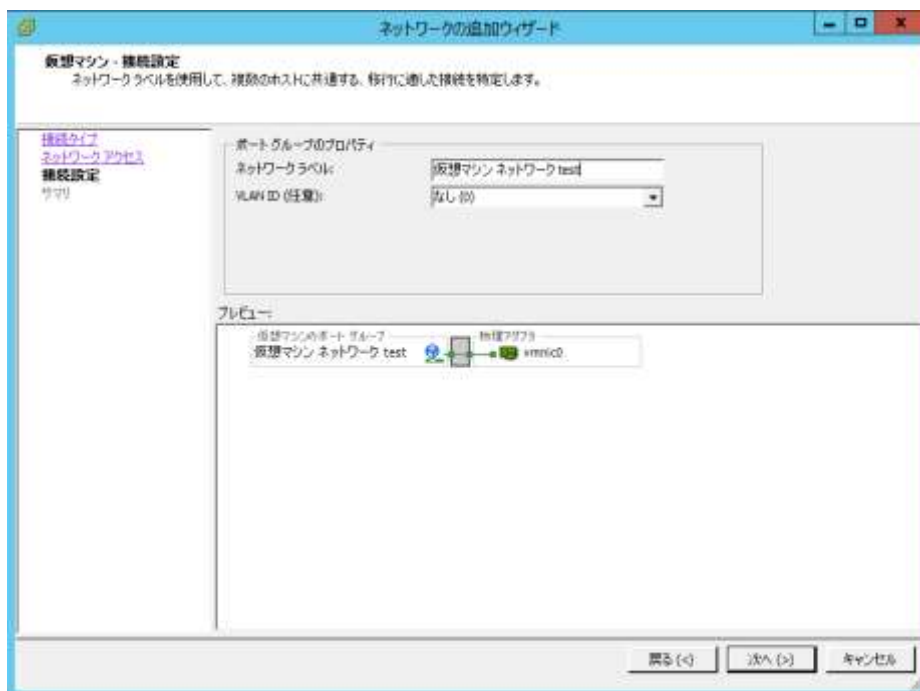


図 2-70 仮想マシン - 接続設定

5. [終了準備の完了] 画面で、追加した vSwitch の内容が正しく構成されていることを確認し、[終了] リックします。

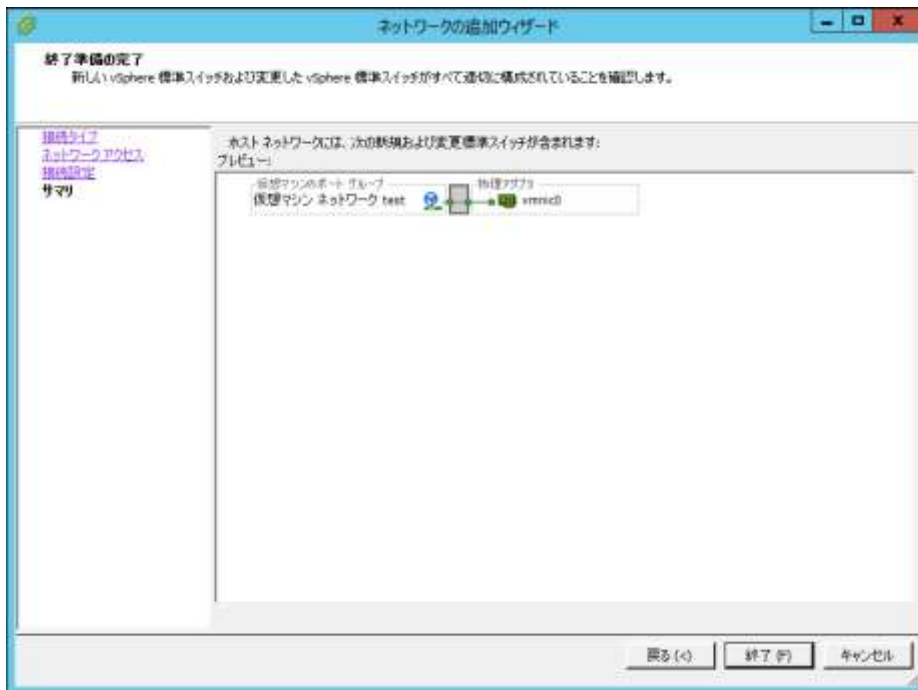


図 2-71 終了準備の完了

6. [構成] タブのネットワーク画面で、作成した業務 LAN 用 vSwitch (画面例では vSwitch1) の [プロパティ] をクリックします。

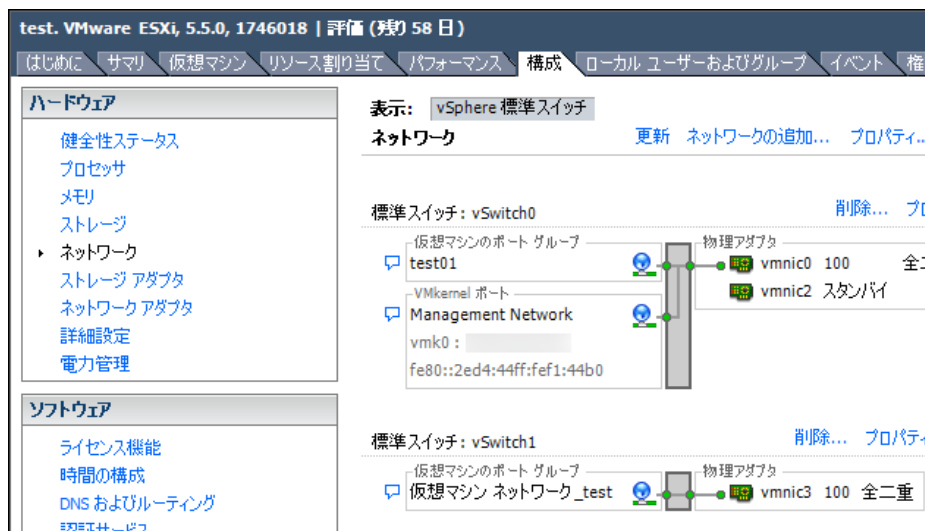


図 2-72 構成—ネットワーク (業務 LAN 設定中)

7. プロパティ画面で、[ポート] タブを選択します。

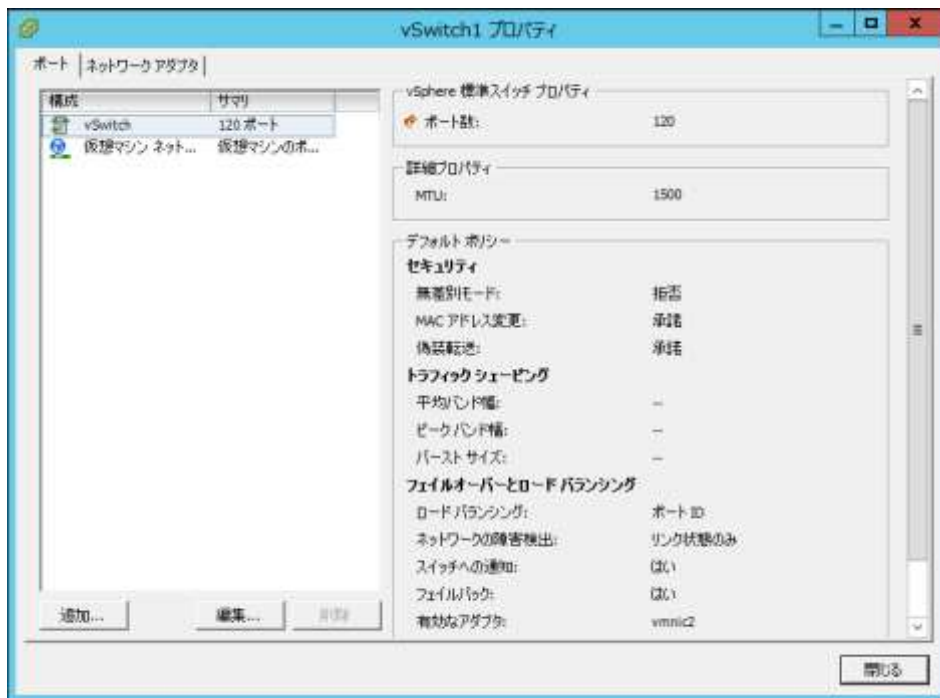


図 2-73 [ポート] タブ (vSwitch)

8. 構成一覧から、[vSwitch] を選択して、[編集] ボタンをクリックします。

9. 表示された画面で、[NIC チーミング] タブを選択します。

10. 以下の設定になっていることを確認し、[OK] をクリックします。

- ネットワークのフェイルオーバー検出：リンク状態のみ
- フェイルバック：はい



図 2-74 [NIC チーミング] タブ

11. プロパティ画面で、[フェイルオーバーとロードバランシング] の設定内容を確認し、[閉じる] をクリックします。

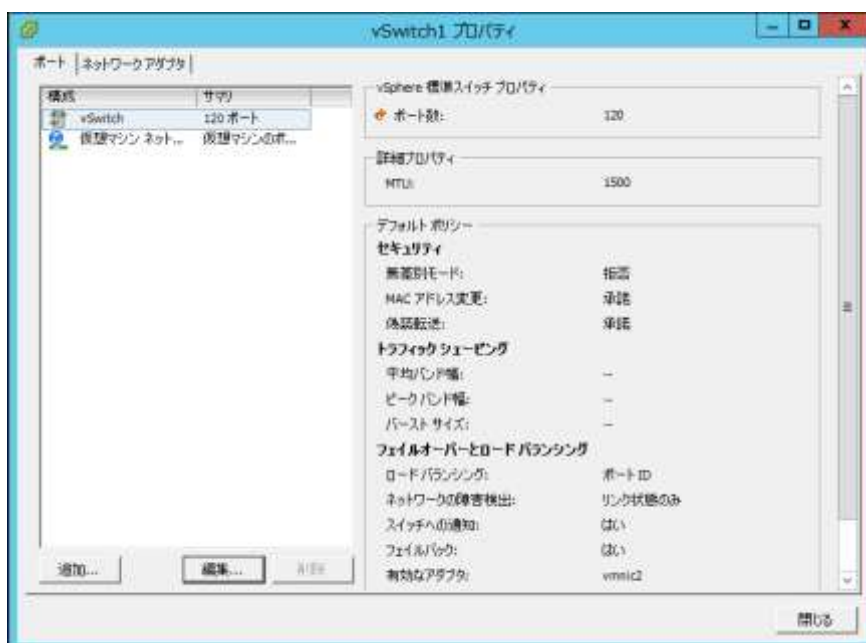


図 2-75 [ポート] タブ (業務 LAN 設定後)

12. [ファイル] メニュー → [終了] をクリックし、vSphere Client を終了します。

2.4.3 ソフトウェアのアップデート

新しい版数のドライバ、ツールが公開されている場合は、ソフトウェアのアップデートをしてください。

各ソフトウェアのアップデート手順については、『ソフトウェア説明書』および富士通 SupportDesk 契約者向け Web ページ (富士通 SupportDesk : <http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>) を参照してください。

2.4.4 ServerView ESXi CIM Provider の確認

監視ツールの ServerView ESXi CIM Provider について確認します。

■ インストールの確認

以下の手順で、ServerView ESXi CIM Provider がインストールされていることを確認します。

1. 管理クライアント PC で、VMware CLI を起動します。

[スタート] → [すべてのプログラム] → [VMware] → [vSphere CLI] → [Command Prompt] をクリックしてください。

2. 表示されたコマンドプロンプト画面で、bin フォルダに移動します。

```
>cd bin
```

3. 以下のコマンドを実行します。

```
>esxcli.exe --server <ホストの IP アドレス> --username <ホストのユーザ名> --password <ホストのパスワード> software vib list
```

備考

次のようなエラーが表示される場合は、入力例に従い[--thumbprint]オプションを使用します。

```
>Connect to w2-server42.mydomain.com failed. Server SHA-1 thumbprint  
5D:01:06:63:55:9D:DF:FE:38:81:6E:2C:FA:71:BC:63:82:C5:16:51 <not  
trusted>
```

<入力例>

```
>esxcli.exe --server <ホストの IP アドレス> --username <ホストのユーザ名>  
--password <ホストのパスワード> --thumbprint  
5D:01:06:63:55:9D:DF:FE:38:81:6E:2C:FA:71:BC:63:82:C5:16:51 software vib  
list
```

4. コマンドを実行後、「svscimprovider」の行が表示されることを確認します。

Name	Version	Vendor	Acceptance Level	Install Date
svscimprovider	n.nn-nn	Fujitsu	VMware Accepted	yyyy-mm-dd

「svscimprovider」が表示されていない場合は、『ServerView ESXi CIM Provider VMware vSphere 6 インストールガイド』を参照し、ServerView ESXi CIM Provider をインストールしてください。

■ 有効化確認

vSphere Client で、ServerView ESXi CIM Provider が有効になっていることを確認します。

1. vSphere Client を起動し、ホストに接続します。
2. インベントリ画面の [構成] タブで、[ソフトウェア] 欄の [詳細設定] をクリックします。
3. 以下の画面で、[UserVars] を選択し、[UserVars.CIMvmw_svscimproviderProviderEnabled] の値を確認します。

[1] (有効) になっていない場合は「1」を入力し、[OK] をクリックします。

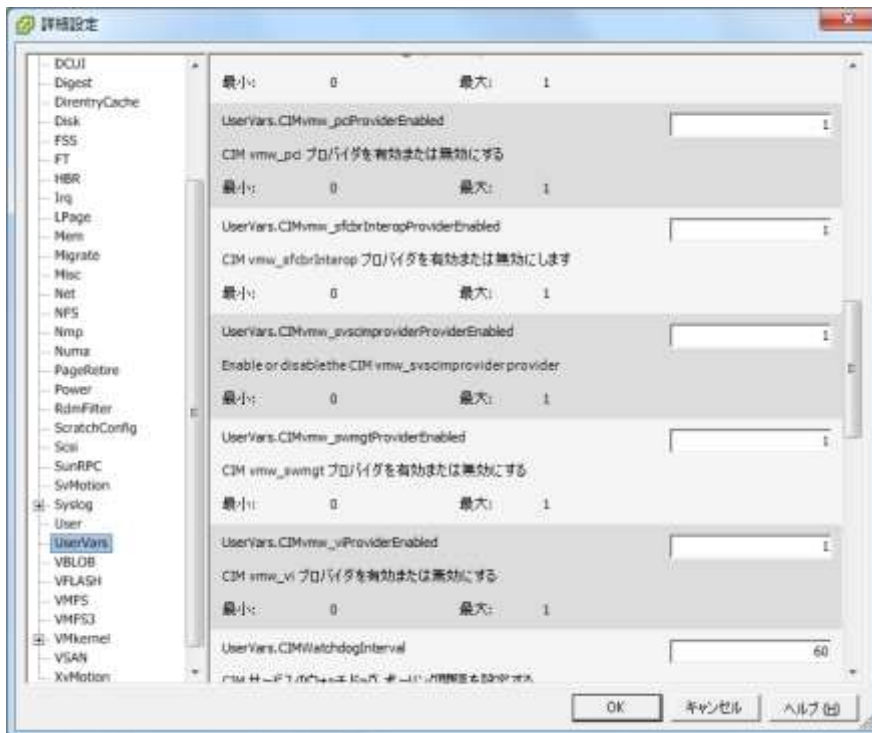


図 2-76 詳細設定

4. [ファイル] メニュー → [終了] をクリックし、vSphere Client を終了します。

2.4.5 管理情報・構成情報の保存

管理情報・構成情報の保存については、『導入マニュアル』の「5.7 管理情報・構成情報の保存」を参照してください。

2.4.6 セキュリティの設定

セキュリティの設定については、以下を参照してください。

- ▶ MMB 上の設定
『導入マニュアル』の「6.5 セキュリティの設定」
- ▶ VMware 上の設定
VMware 社のマニュアル

3 仮想マシンの構成

VMware vSphere Client を利用して、仮想マシンを構成します。

3.1 仮想マシンの作成

3.1.1 データセンターの作成とホストの追加

VMware Web Client から vCenter Server にアクセスし、ゲスト仮想マシン用のインベントリ設定を行います。

備考

ホストと管理サーバが起動し、ネットワーク接続が確立した状態で作業してください。

1. 管理クライアント PC でブラウザ（本書では Internet Explorer）を起動し、以下の URL に接続します。

`https://<管理サーバ名>.<DNS サフィックス>:9443/vsphere-client`

2. [この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。] という画面が表示された場合、[このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。] をクリックします。
3. ログイン画面で、vCenter Server のインストール時に設定した管理サーバのユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

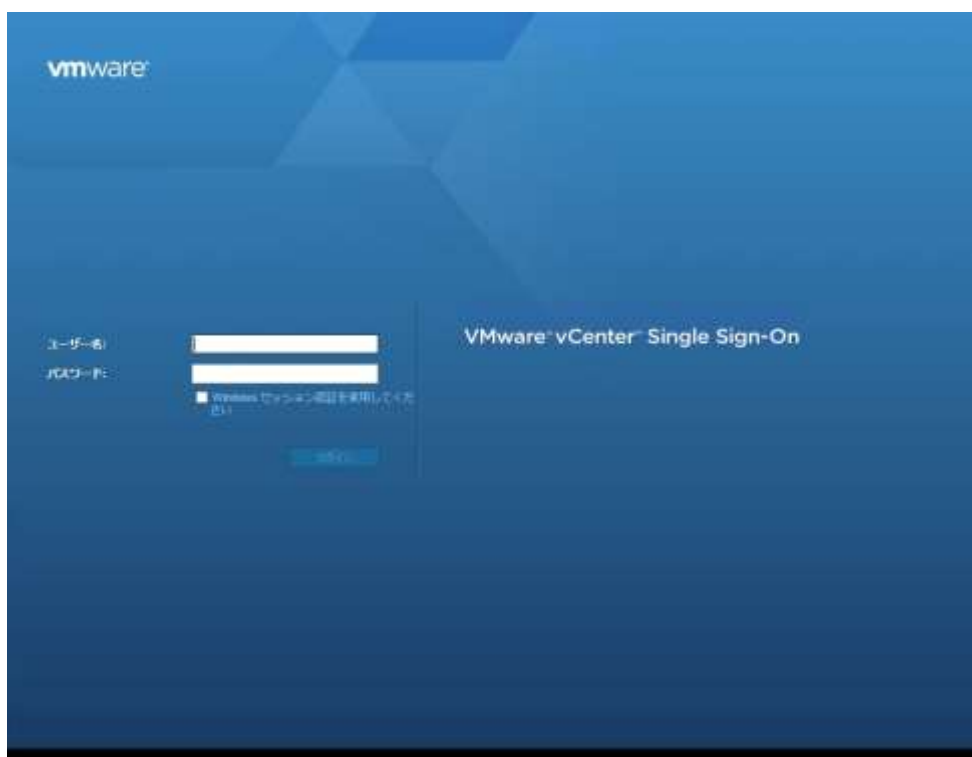


図 3-1 Web Client ログイン

4. [vCenter ホーム] 画面左側で、[ホストおよびクラスタ] をクリックします。



図 3-2 vCenter ホーム

5. 画面左側の管理サーバ名を選択した状態で、[アクション] → [新規データセンター] をクリックします。



図 3-3 新規データセンター選択

6. データセンター名を設定します。

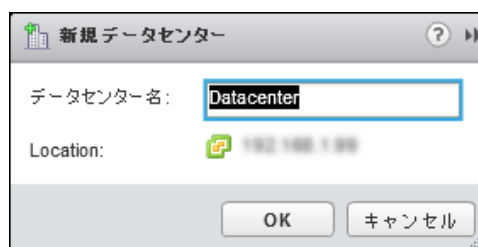


図 3-4 データセンター名設定

- 作成したデータセンター名を選択した状態で、[アクション] → [ホストの追加] をクリックします。

[ホストの追加] ウィザード画面が表示されます。

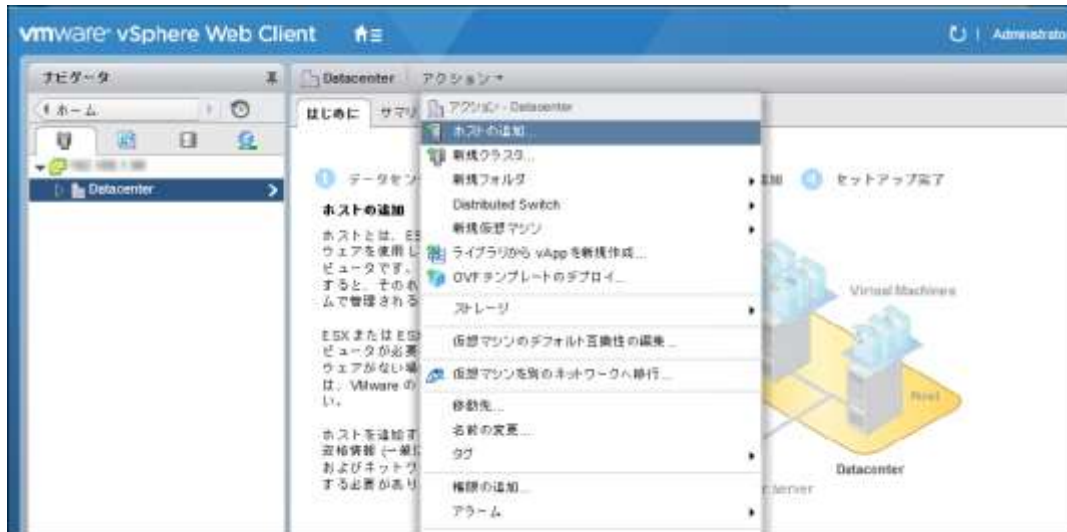


図 3-5 ホストの追加選択

- [名前と場所] 画面で、使用するホストの名前または IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

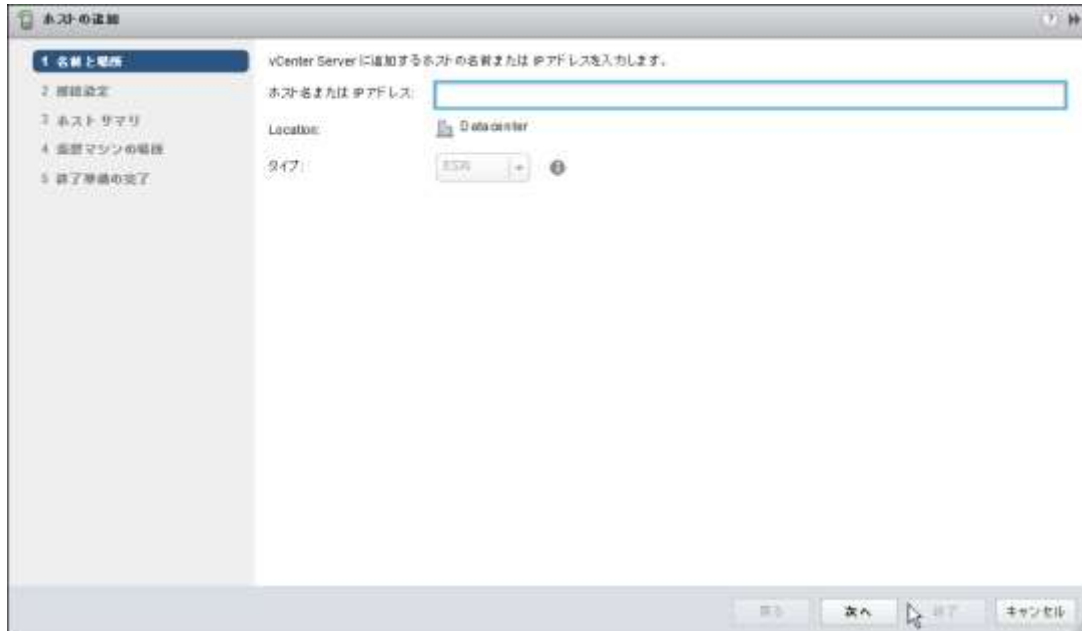


図 3-6 名前と場所

9. [接続設定] 画面で、ホストのユーザー名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。



図 3-7 接続設定

10. [セキュリティアラート] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。



図 3-8 セキュリティアラート

11. [ホストサマリ] 画面で、内容を確認し、[次へ] をクリックします。

12. [ライセンスの割り当て] 画面で、+マークの「新規ライセンスを追加」を選択し、ホストのライセンスキーを入力します。

1. [ライセンス名を編集] 画面で、ライセンスを確認し、適切な名前を付けて、[次へ]をクリックします。

2. [終了準備の完了] 画面で、[終了] をクリックします。

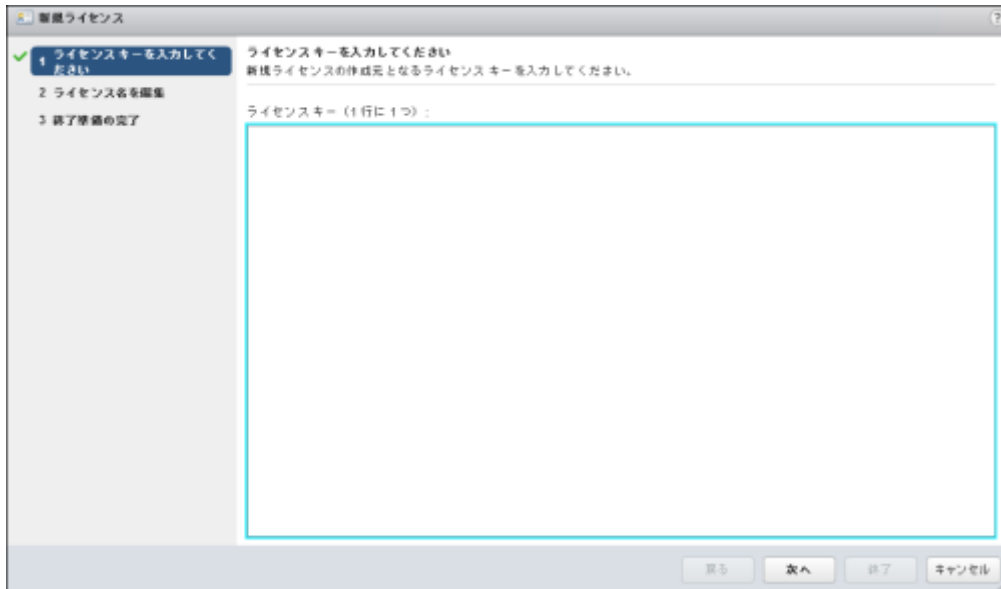


図 3-9 ライセンスの割り当て

13. [ロックダウンモード] 画面で、[次へ] をクリックします。

14. [仮想マシンの場所] 画面で、データセンターを選択し、[次へ] をクリックします。

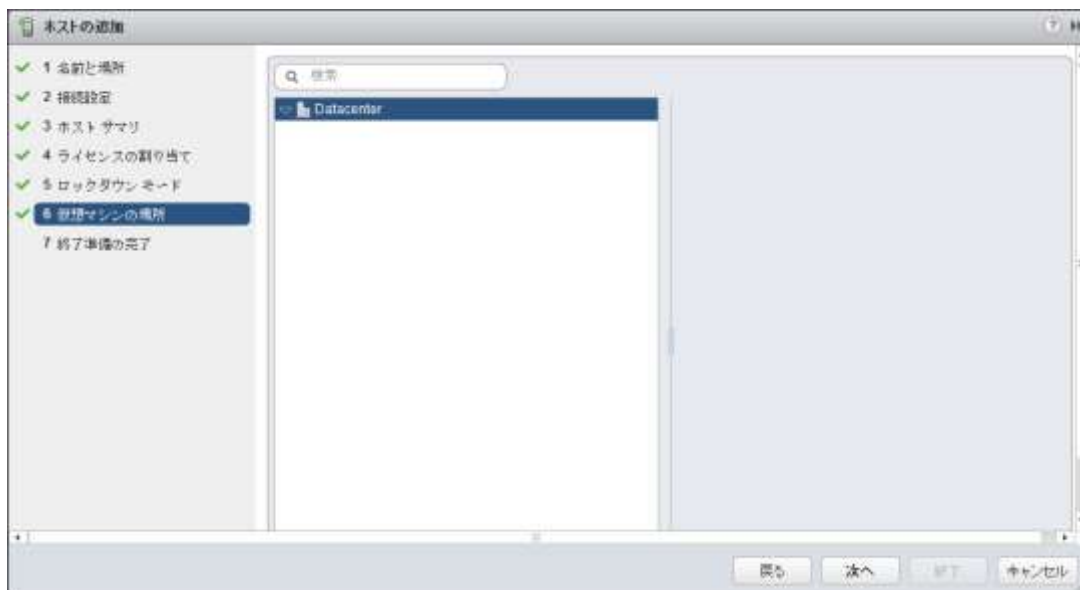


図 3-10 仮想マシンの場所

15. [終了準備の完了] 画面で、内容を確認し、[終了] をクリックします。
データセンターの配下に追加したホストが表示されます。

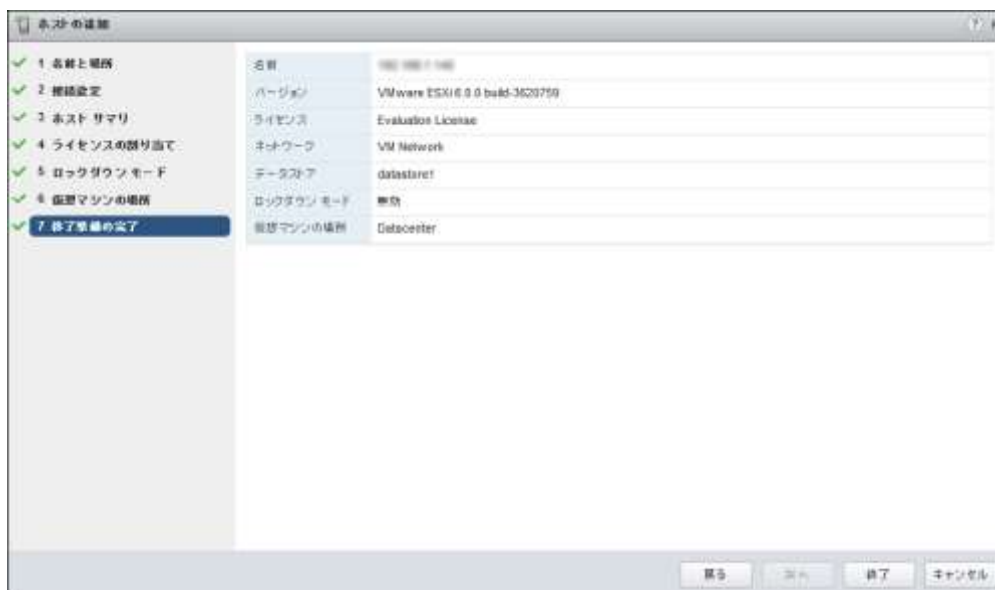


図 3-11 終了準備の完了

3.1.2 仮想マシンの作成

ホストの配下に新規仮想マシンを作成します。

1. Web Client の [ホストおよびクラスタ] をクリックして表示された画面で、仮想マシンを作成するホストを選択し、[アクション] → [新規仮想マシン] をクリックします。
[新規仮想マシン] ウィザード画面が表示されます。

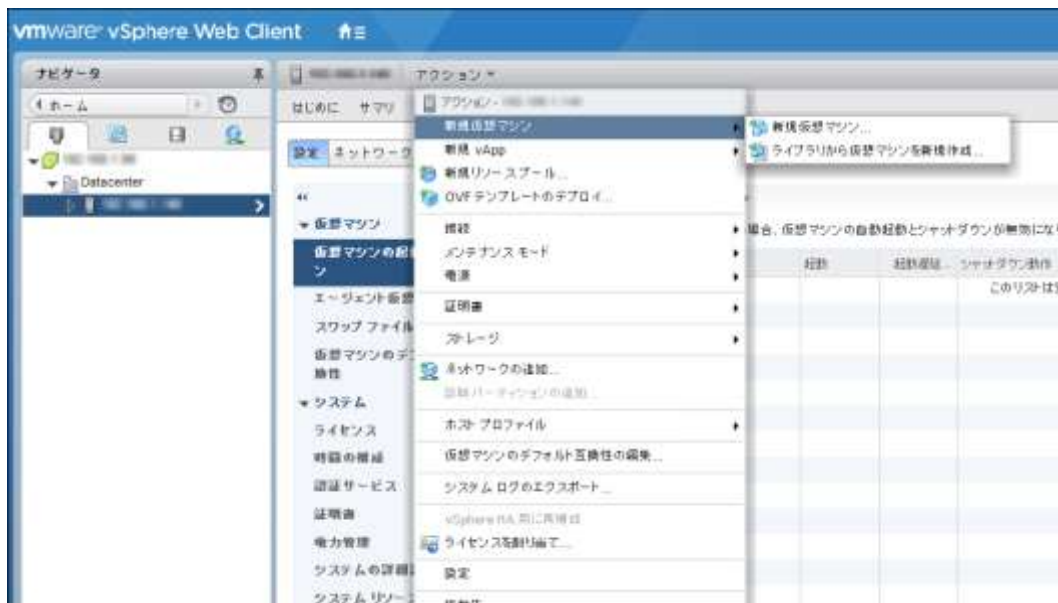


図 3-12 ホスト選択

2. [作成タイプの選択] 画面で、[新規仮想マシンの作成] を選択し、[次へ] をクリックします。



図 3-13 作成タイプの選択

3. [名前とフォルダの選択] 画面で、作成する仮想マシンの名前を入力し、データセンターを選択した状態で [次へ] をクリックします。

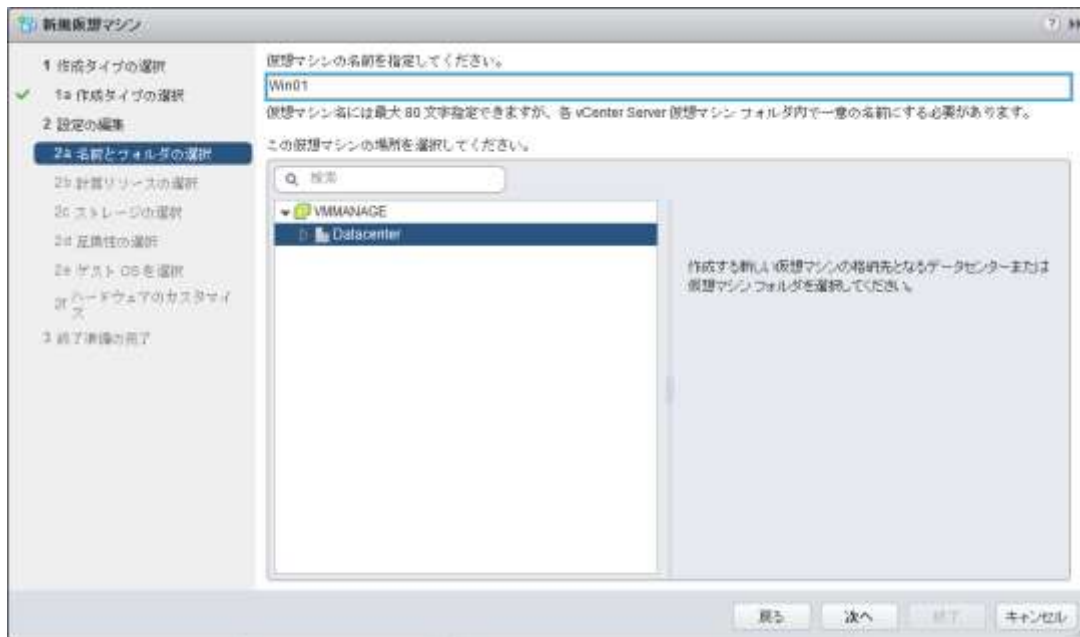


図 3-14 名前とフォルダの選択

4. [計算リソースの選択] 画面で、仮想マシンを作成するホストを選択し、[次へ] をクリックします。

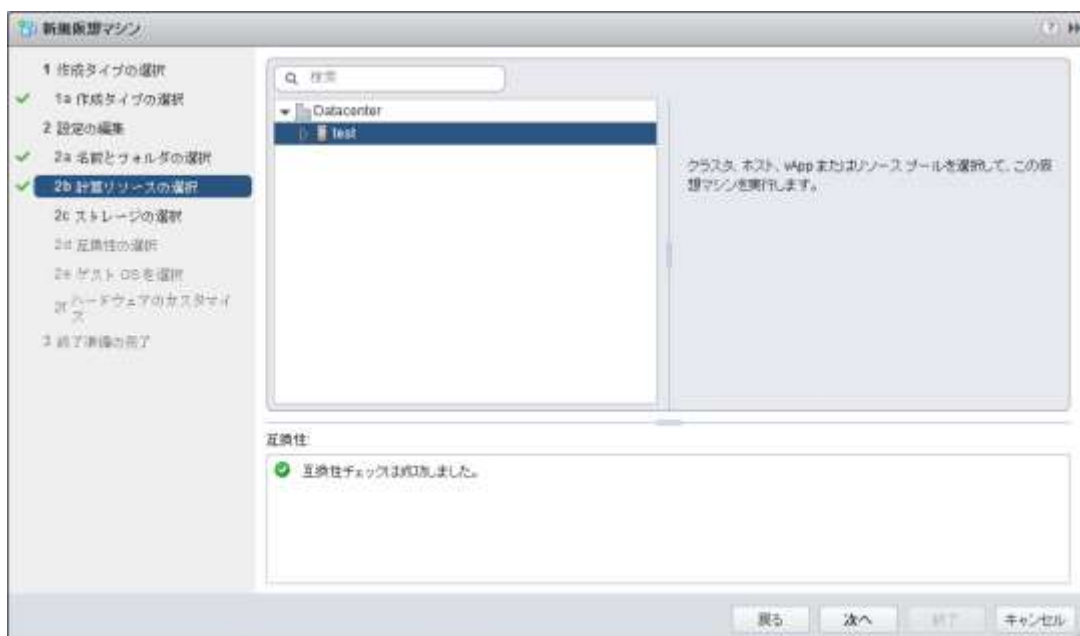


図 3-15 計算リソースの選択

5. [ストレージの選択] 画面で、仮想マシンを保存するストレージを選択し、[次へ] をクリックします。

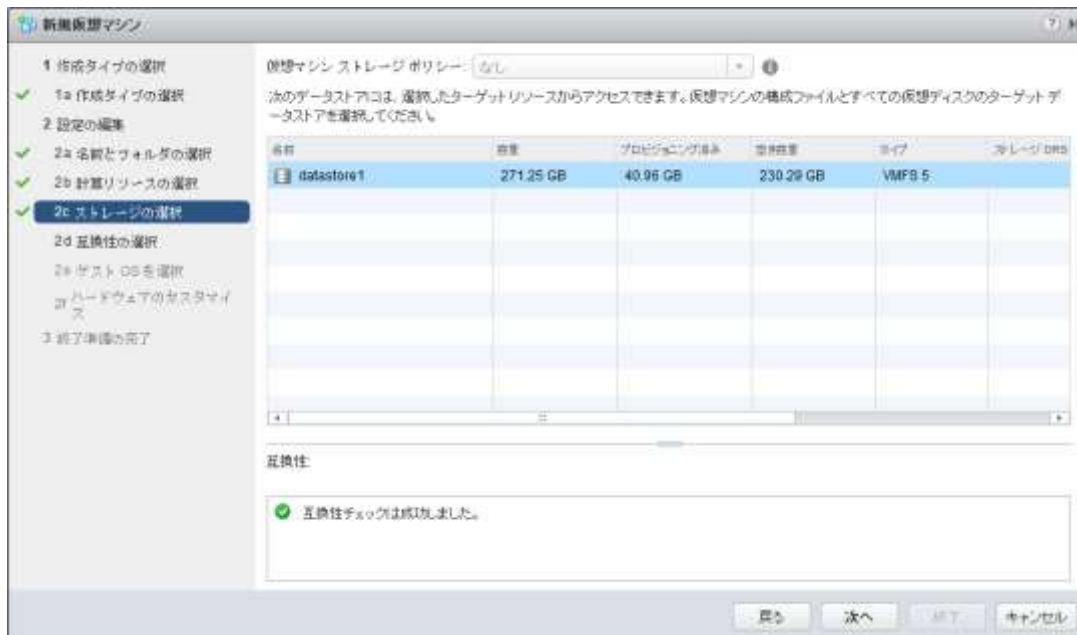


図 3-16 ストレージの選択

6. [互換性の選択] 画面で互換性を持たせる VMware のバージョン (画面では ESXi5.5 以降) を選択し、[次へ] をクリックします。



図 3-17 互換性の選択 (ESXi6.0 の例)

7. [ゲスト OS を選択] 画面で、仮想マシンにインストールする OS とバージョン (画面では Windows Server 2012) を選択し、[次へ] をクリックします。

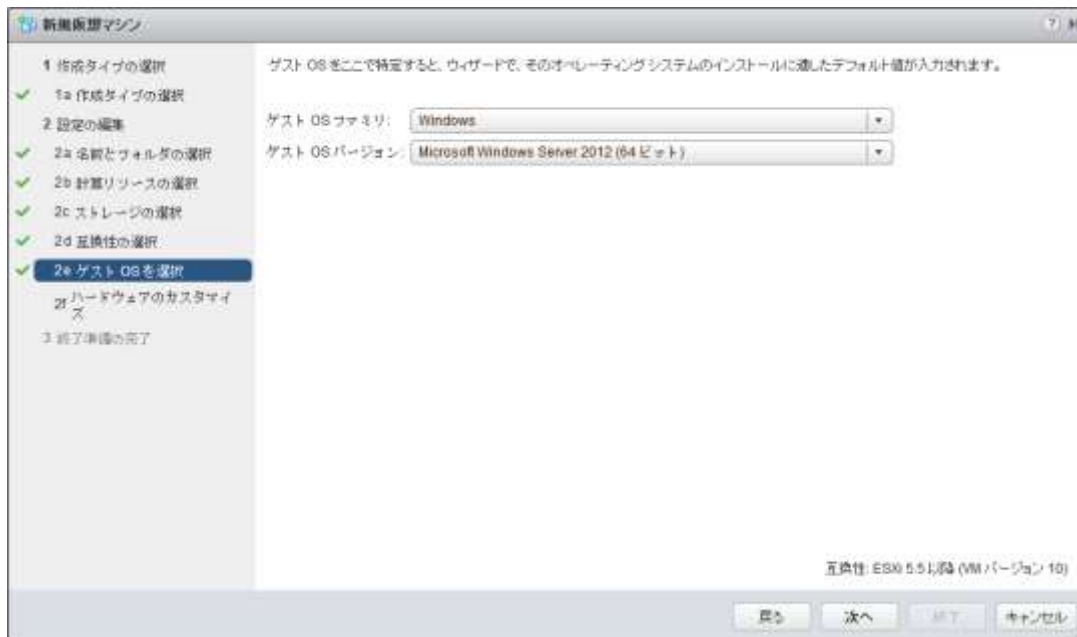


図 3-18 ゲスト OS を選択 (Windows Server 2012 の例)

8. [ハードウェアのカスタマイズ] 画面で、仮想マシンで使用する vCPU 数、仮想メモリ容量、ハードディスク容量、ネットワークなど必要な項目を確認、設定し、[次へ] をクリックします。



図 3-19 ハードウェアのカスタマイズ

9. [終了準備の完了] 画面で、設定内容を確認し、[終了] をクリックします。



図 3-20 終了準備の完了

続けて、「[3.2 ゲスト OS のインストール](#)」を参照し、ゲスト OS のインストールを行ってください。

3.2 ゲスト OS のインストール

「[3.2.1 インストールメディアの準備](#)」のあと、インストールする OS に合わせて手順を参照してください。

- Windows Server 2012 R2 : 「[3.2.2 Windows Server 2012 R2のインストール](#)」
- RHEL 6.6 : 「[3.2.3 RHE7.2のインストール](#)」

3.2.1 インストールメディアの準備

ゲスト OS のインストールに使用するメディアを、管理クライアント PC で使用できるように準備します。
インストールメディアの種類や入手方法については、「[1.2 メディアの準備](#)」を参照してください。

3.2.2 Windows Server 2012 R2 のインストール

仮想マシンに Windows Server 2012 R2 と VMware Tools をインストールします。

■ Windows Server 2012 R2 のインストール

1. 作成した仮想マシンを起動します。
 1. Web Client のインベントリツリー画面左側で、インストールを行うゲスト OS を選択します。
 2. [アクション] → [電源] → [パワーオン] をクリックします。

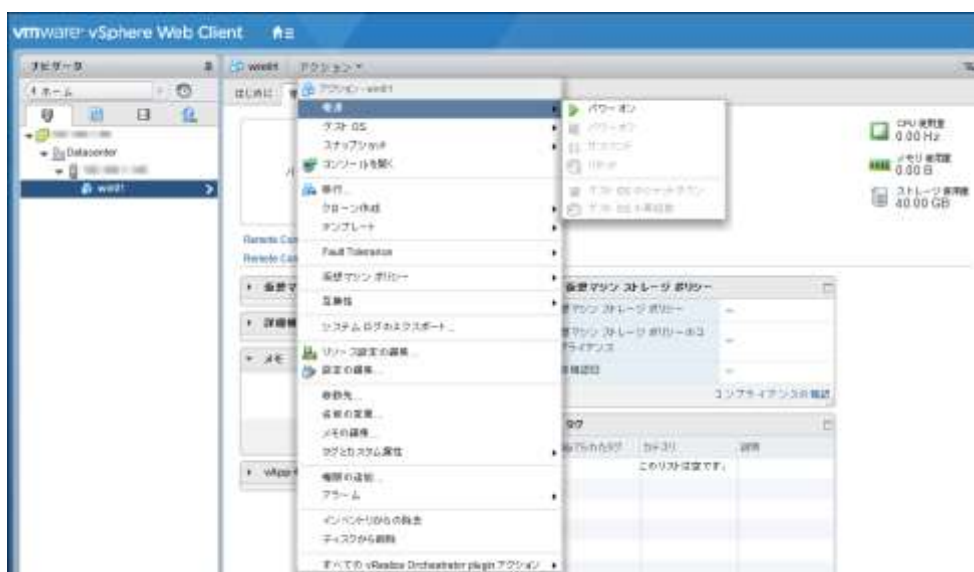


図 3-21 仮想マシンパワーオン

2. サマリタブの [Remote Console を起動] をクリックします。コンソール画面が開きます。VMRC ダウンロード画面が表示されたら画面指示に従ってインストールをしてください。

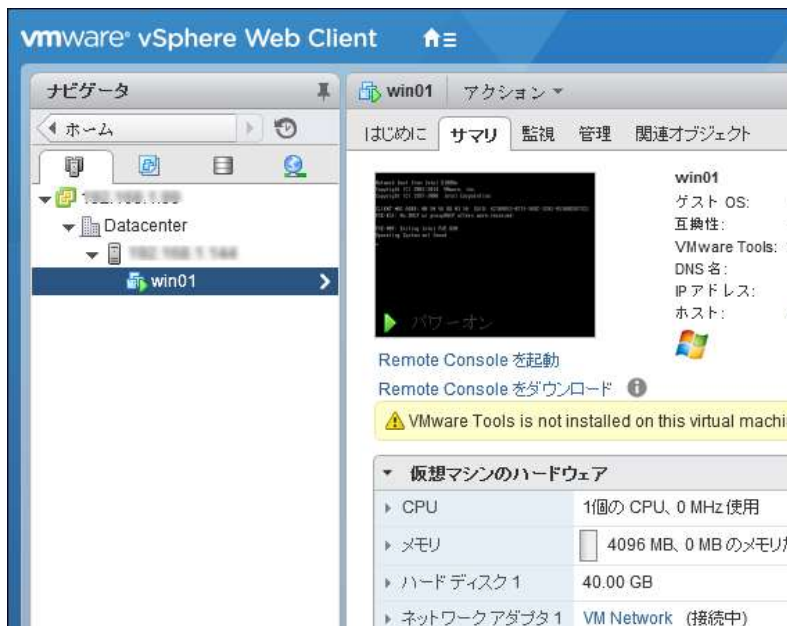


図 3-22 コンソール画面表示

3. ブラウザでコンソール画面を選択し、「Operating System not found」のメッセージが表示されることを確認します。

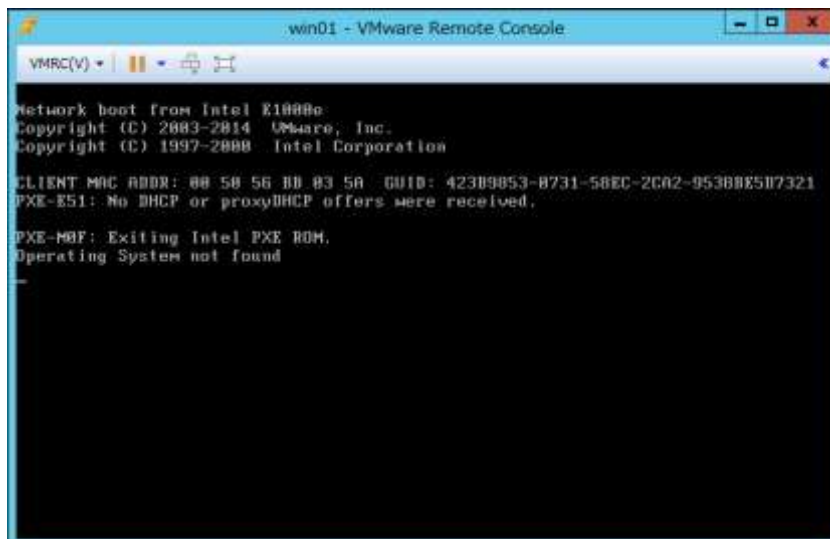


図 3-23 コンソール初期画面

4. コンソール画面で、[VMRC] → [取り外し可能デバイス] で仮想 OS 用インストールメディアをセットしたドライブを選択します。(例では、[CD/DVD ドライブ 1])

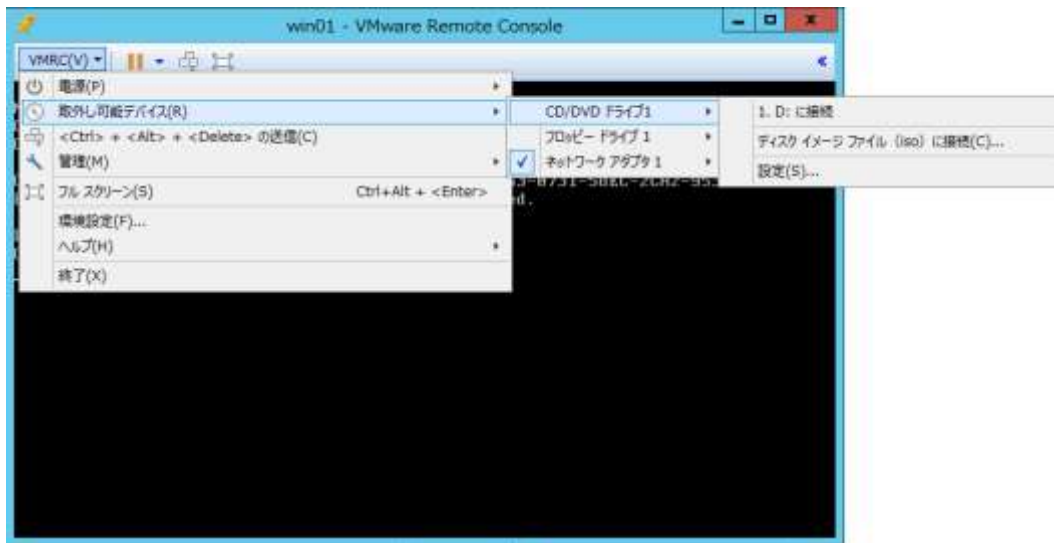


図 3-24 コンソール画面

5. コンソール画面で、[VMRC] → [Ctrl+Alt+Delete の送信] をクリックします。仮想マシンが再起動し、Windows Server 2012 R2 のインストールメディアが起動されます。
1. 画面の指示に従ってインストールを実行します。コンソール画面上をクリックすると、仮想マシン上の入力が可能になります。インストール中、数回再起動します。インストールが完了したら、インストールメディアを切断します。
 2. [Ctrl] + [Alt] キーを押して、入力対象をコンソール画面からクライアント PC に戻します。

■ VMware Tools のインストール

1. 対象の仮想マシンを右クリックで選択し、[ゲスト OS] → [VMware Tools のインストール] をクリックします。

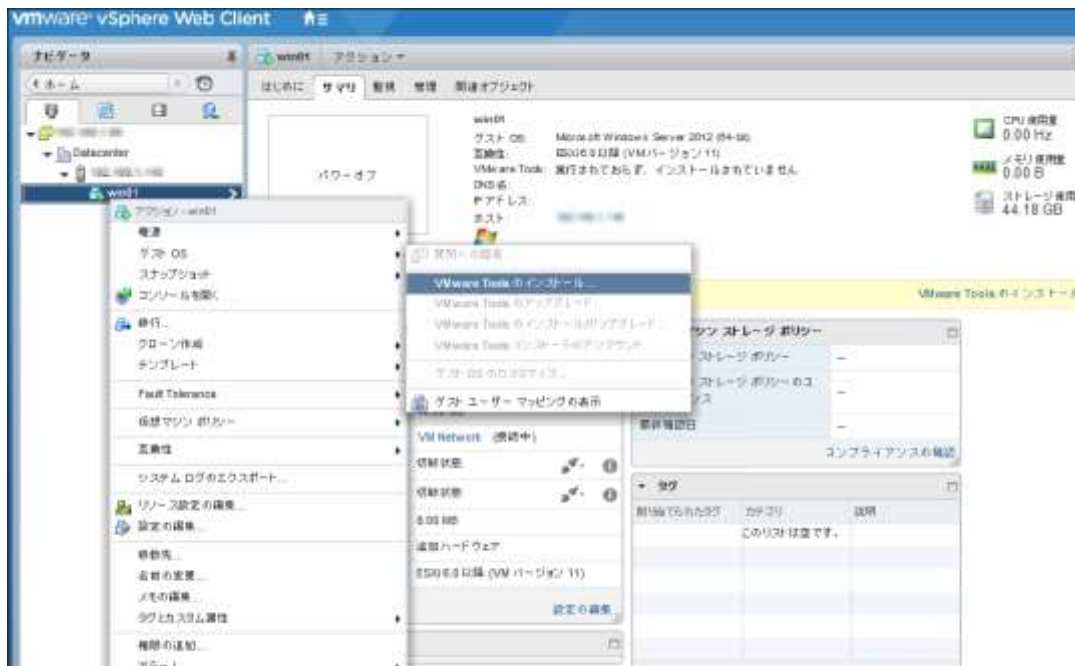


図 3-25 VMware Tools のインストール

2. [VMware Tools のインストール] 画面で、[マウント] をクリックします。

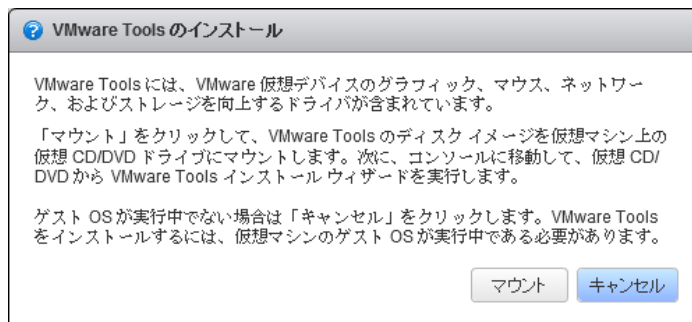


図 3-26 VMware Tools のインストール

3. コンソール画面で、CD/DVD ドライブの「setup64.exe」を実行します。

4. 以下の画面で、[次へ] をクリックします。



図 3-27 VMware Tools のインストールウィザードへようこそ

5. [セットアップの種類を選択] 画面で、[標準] を選択し、[次へ] をクリックします。



図 3-28 セットアップの種類を選択

6. [VMware Tools のインストール準備完了] 画面で、[インストール] をクリックします。
インストールが開始されます。

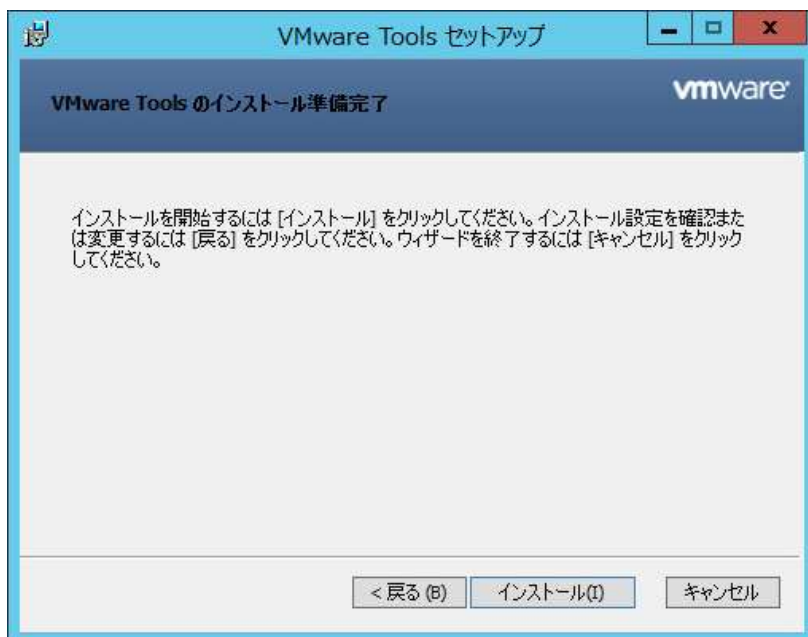


図 3-29 VMware Tool のインストール

7. [セットアップウィザードの完了] 画面で、[完了] をクリックします。



図 3-30 セットアップウィザードの完了

8. 以下の画面で、[はい] をクリックします。

仮想マシンが再起動されます。



図 3-31 VMware Tools インストール後の再起動

9. [サマリ] タブで、VMware Tools が「実行」状態であることを確認します。

■ インストール後の確認／設定

ネットワークなど、運用前に必要な設定を行ってください。

備考

仮想マシンのファイアウォールは、無効に設定してください。

3.2.3 RHE7.2 のインストール

1. 作成した仮想マシンを起動します。
 1. VMware vSphere Client のインベントリツリー画面で、インストールを行う仮想マシンを選択します。
 2. [アクション] → [電源] → [パワーオン] をクリックします。

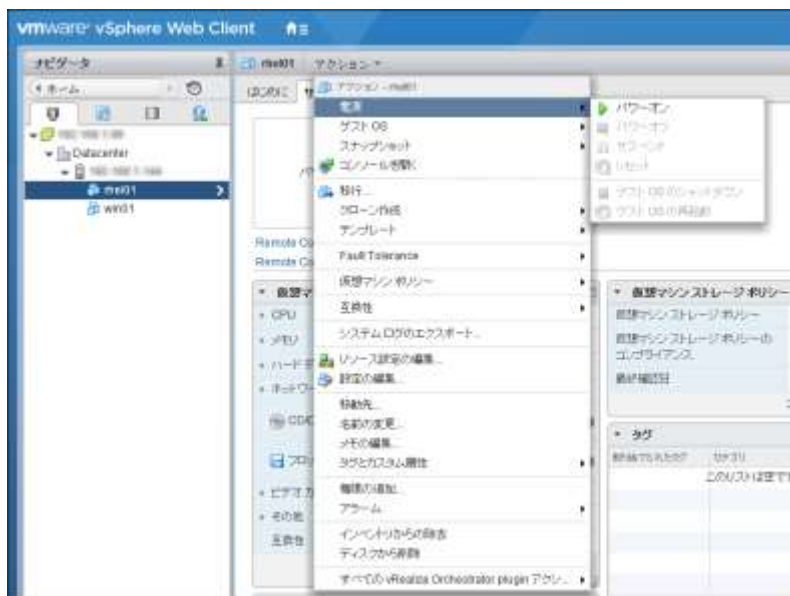


図 3-32 仮想マシンパワーオン

2. サマリタブの [Remote Console を起動] をクリックします。コンソール画面が開きます。VMRC ダウンロード画面が表示されたら画面指示に従ってインストールをしてください。
3. ブラウザでコンソール画面を選択し、「Operating System not found」のメッセージが表示されることを確認します。

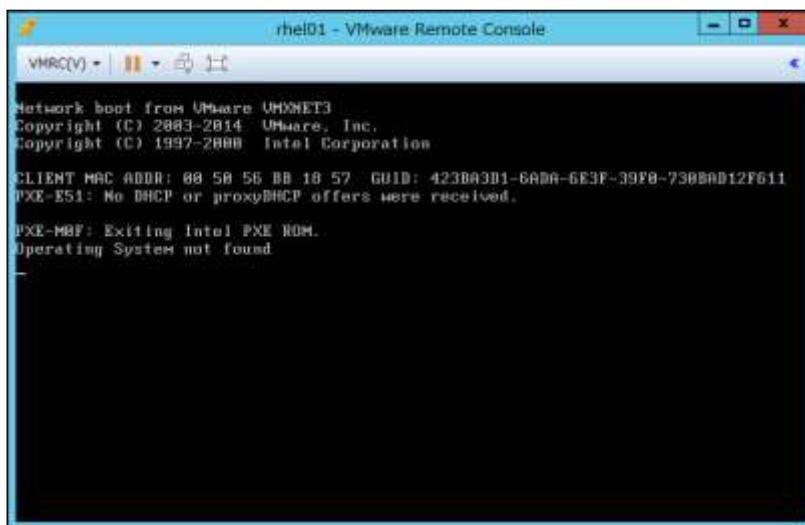


図 3-33 コンソール初期画面

4. コンソール画面で、[VMRC] → [取り外し可能デバイス] で仮想 OS 用インストールメディアをセットしたドライブを選択します。(例では、[CD/DVD ドライブ 1])

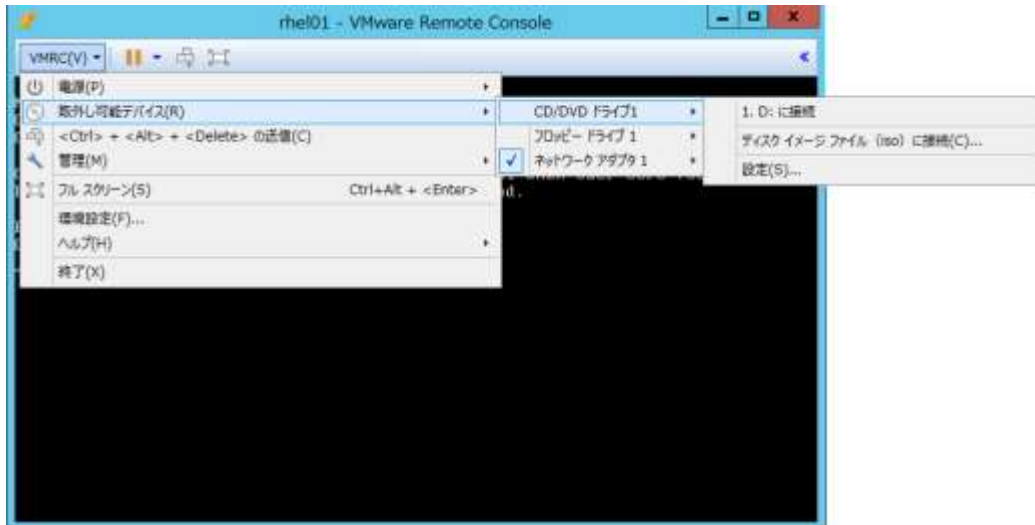


図 3-34 コンソール画面

1. コンソール画面で、[VMRC] → [Ctrl+Alt+Delete の送信] をクリックします。仮想マシンが再起動し、RHEL のインストールメディアが起動されます。
2. 画面の指示に従ってインストールを実行します。コンソール画面上をクリックすると、仮想マシン上の入力が可能になります。

注意

- VMware Tools を使用するため、GUI 環境（サーバー（GUI 使用））をインストールしてください。

5. インストールが完了したら、インストールメディアを切断します。
 1. [Ctrl] + [Alt] キーを押して、入力対象をコンソール画面からクライアント PC に戻します。
 2. コンソールのインストール完了画面で、[再起動] をクリックし、仮想マシンを再起動します。
6. 初期セットアップ画面が表示されますので、画面の指示に従い、設定を完了させます。
7. 再起動後、[ようこそ] 画面で [次へ] をクリックします。



図 3-35 RHEL インストール後の設定—ようこそ

8. 画面の指示に従い、設定を完了させます。

■ FJ-LSP のインストール

1. 仮想 OS 用ドライブに、FJ-LSP のインストールメディアをセットします。
2. 接続したメディアを仮想マシンにマウントします。

```
(入力例)  
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /media
```

3. カレントディレクトリがメディアをマウントした場所でないことを確認してから、メディア内の `fj_lsp_start.sh` を実行します。

```
# sh /media/fj_lsp_start.sh
```

4. FJ-LSP の適用を開始します。

富士通ミドルウェア向け OS パッケージのインストール要否を確認するメッセージが表示されます。富士通ミドルウェアを使用する場合は、[y] キーを押します。

```
os package for fujitsu middleware install ? [y/n]::y
```

そのあと、kernel-debuginfo CD および RHEL インストール DVD の挿入メッセージが順次表示されるので、表示されるメッセージに合わせて CD/DVD のイメージファイルを接続したあと、任意のキーを押してください。

5. 以下の完了メッセージが表示されることを確認します。

```
apply completed.  
/tmp/fj_lsp_tmp.<PID> is no more needed, please delete it.  
(<PID>には数字が入ります。)
```

備考

メッセージが表示されていない場合は、『Linux ユーザーズマニュアル』を参照し、エラーメッセージに従った対処をしてください。

6. 以下のコマンドを入力し、インストールメディアをアンマウントします。

```
# umount /dev/cdrom
```

7. [サマリ] タブの [仮想マシンのハードウェア] 欄で、[CD/DVD ドライブ 1] を切断状態にします。

8. 以下のコマンドを入力し、`/tmp/fj_lsp_tmp.<PID>` を削除します。

```
# rm -rf /tmp/fj_lsp_tmp.<PID>
```

9. システムを再起動します。

```
# /sbin/shutdown -r now
```


■ インストール後の確認／設定

ネットワークなど、運用前に必要な設定を行ってください。

以下の点に御留意ください。

- 仮想マシンのファイアウォールは無効に設定してください。
- sadump は仮想上では動作しないので、設定は不要です。
- 時刻同期の同期先サーバは、ハイパーバイザを指定してください。

3.3 管理ツールのインストール

管理ツールのインストールについて説明します。

サーバ監視の留意事項については、『VMware vSphere 6 におけるサーバ監視の留意事項』を参照してください。

3.3.1 ServerView RAID Manager のインストール

ゲスト OS の 1 つに、ServerView RAID Manager をインストールします。

インストール方法などの詳細は、『ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 6 インストールガイド』を参照してください。

3.3.2 SVOM のインストール

SVOM を使用した監視を実施する場合は、ゲスト OS の 1 つに SVOM をインストールします。

インストール方法などの詳細は、『ServerView Operations Manager 取扱説明書』を参照してください。

3.4 仮想マシンの展開

作成した仮想マシンのクローンを作成します。

本書では、RHEL をインストールした仮想マシンのクローンを作成します。

ブラウザの Web Client から vCenter Server にログインした状態で作業をしてください。

1. インベントリツリー画面でクローンを作成する仮想マシンを選択し、[アクション] → [クローン作成] → [仮想マシンにクローン作成] をクリックします。

[既存の仮想マシンのクローン作成] ウィザード画面が表示されます。



図 3-36 クローン作成選択

2. [名前とフォルダの選択] 画面で、作成する仮想マシンの名前を入力し、[次へ] をクリックします。

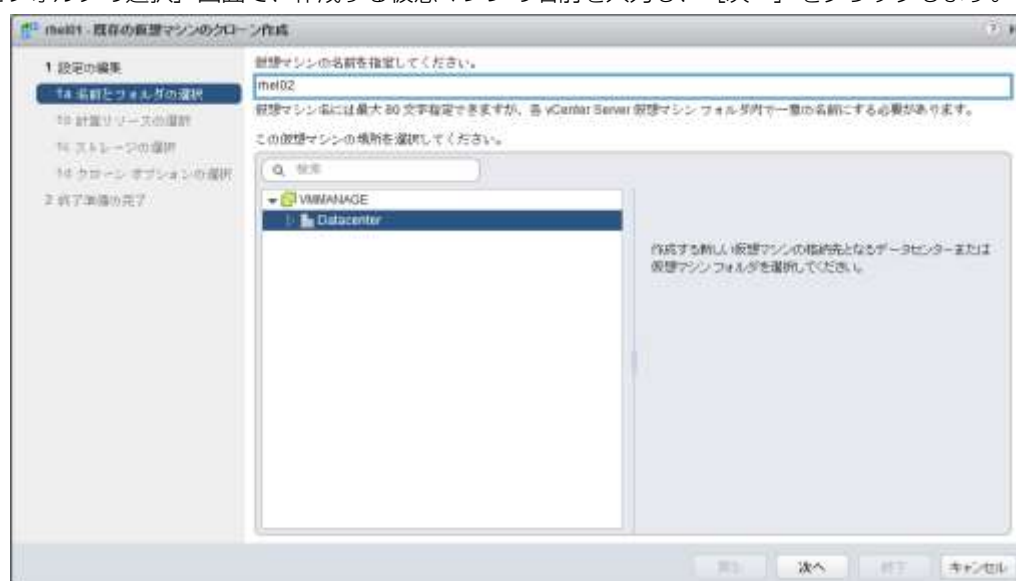


図 3-37 名前とフォルダの選択

3. [計算リソースの選択] 画面で、以下の操作をします。

1. 仮想マシンを実行するホスト (ESXi サーバ) を選択します。
2. [互換性:] に「互換性チェックは成功しました。」と表示されるのを確認し、[次へ] をクリックします。

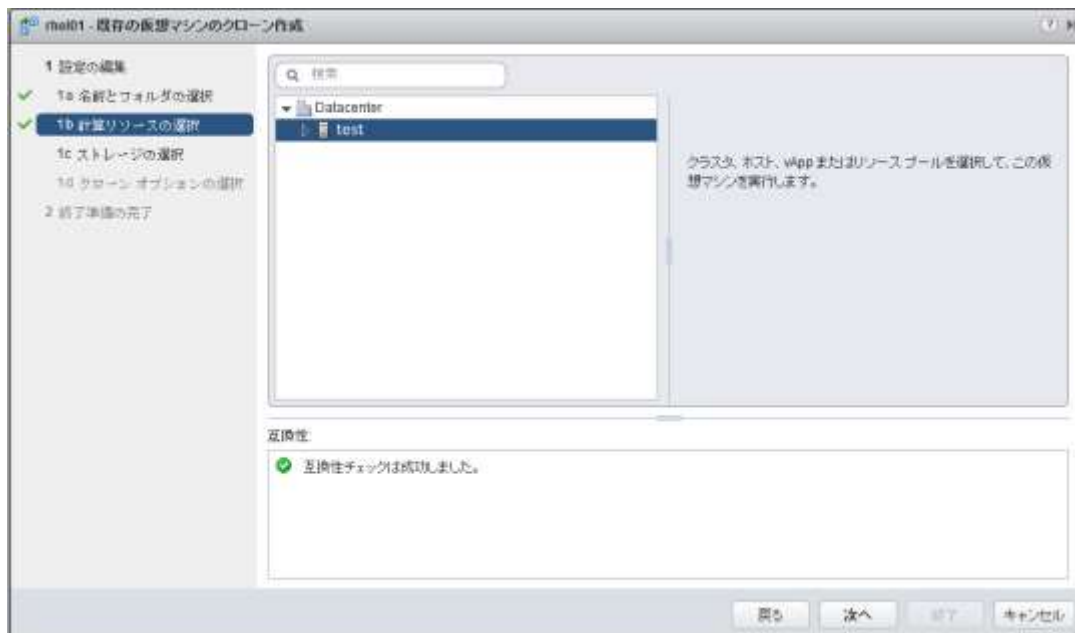


図 3-38 計算リソースの選択

4. [ストレージの選択] 画面で、使用するストレージを選択し、[次へ] をクリックします。

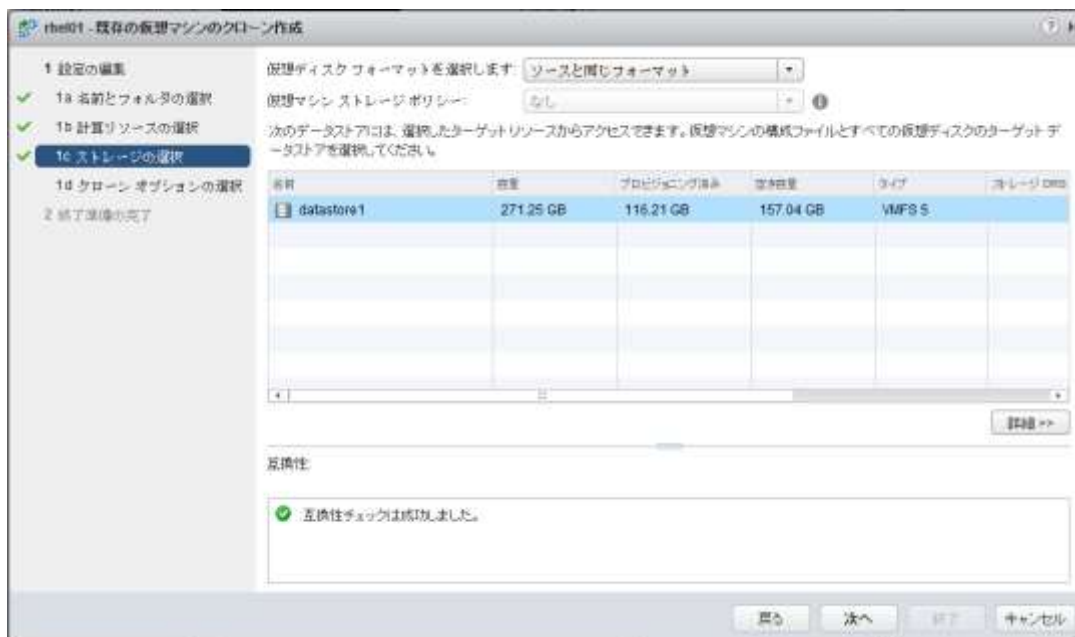


図 3-39 ストレージの選択

5. [クローンオプションの選択] 画面で、[オペレーティングシステムのカスタマイズ] をチェックし、[次へ] をクリックします。

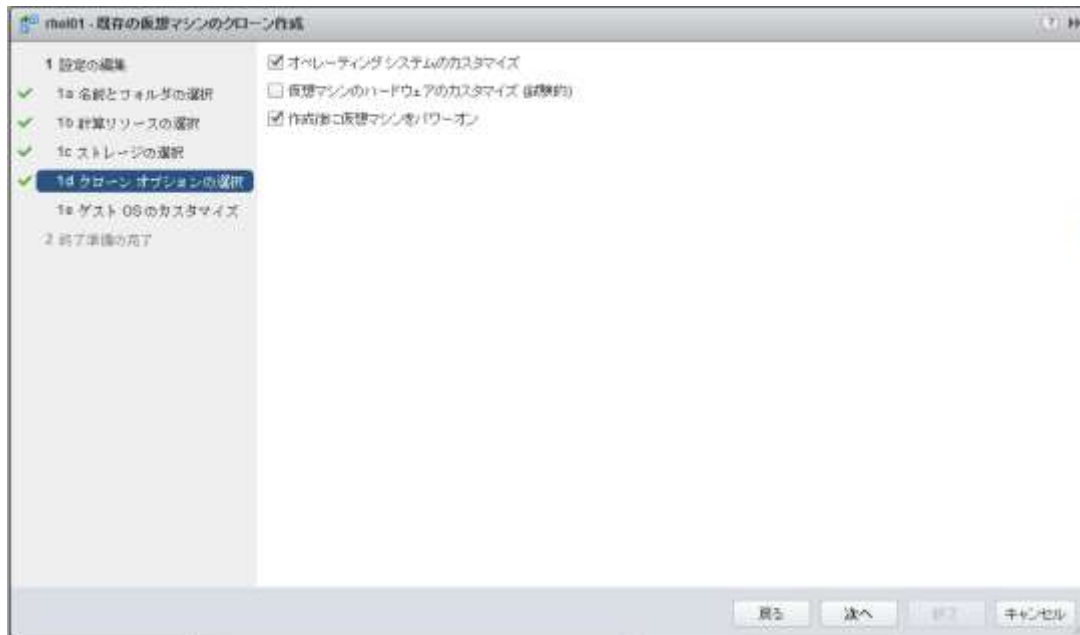


図 3-40 クローンオプションの選択

6. [ゲスト OS のカスタマイズ] 画面で、[] をクリックします。
[新しい仮想マシンゲスト カスタマイズ仕様] ウィザード画面が表示されます。

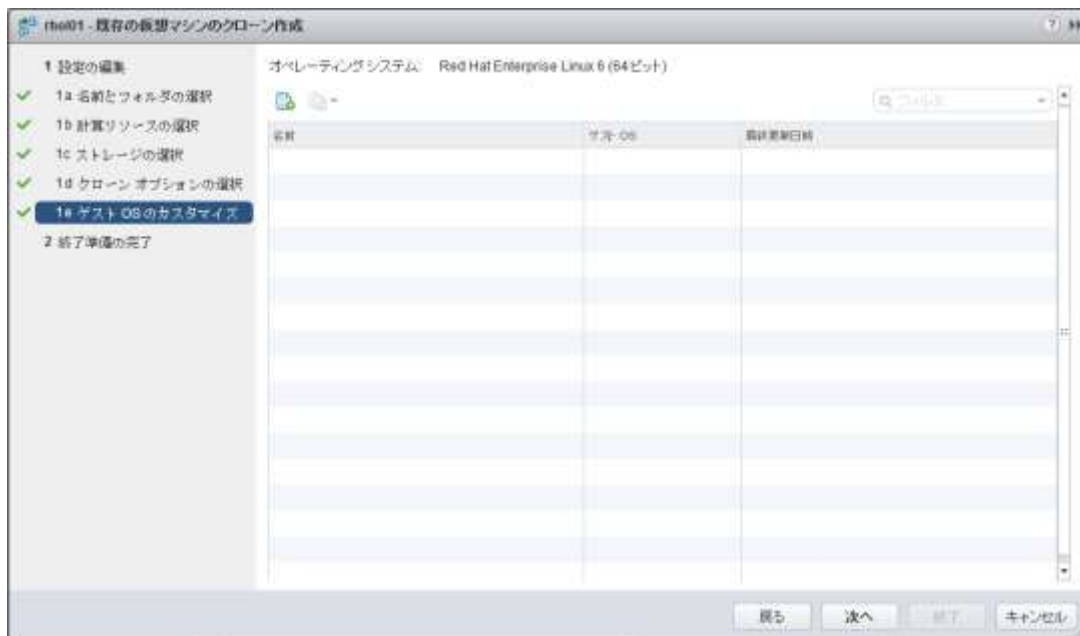


図 3-41 ゲスト OS のカスタマイズ

7. [プロパティの指定] 画面で、作成するカスタマイズ仕様の名前を入力し、[次へ] をクリックします。

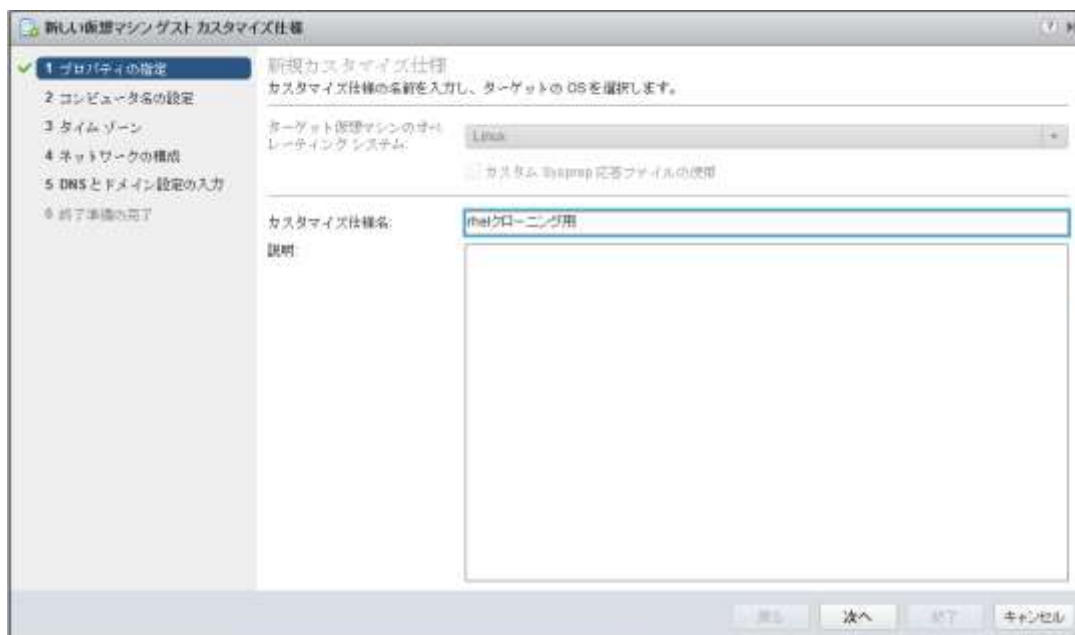


図 3-42 プロパティの指定

8. [コンピュータ名の設定] 画面で、以下の設定をします。

1. [仮想マシン名を使用] を選択します。
2. 仮想マシンで使用するドメイン名を入力します。
3. [次へ] をクリックします。



図 3-43 コンピュータ名の設定

9. [タイムゾーン] 画面で、以下の設定をします。
 1. 使用するタイムゾーンのエリアと場所を選択します。
 2. [ハードウェア時計設定] で、[ローカル時間] を選択します。
 3. [次へ] をクリックします。



図 3-44 タイムゾーン

10. [ネットワークの構成] 画面で、[カスタム設定を手動で選択] と設定する NIC を選択し、[] をクリックします。



図 3-45 ネットワークの構成

11. [**<NIC名>** - ネットワークの編集] 画面で、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを入力し、[OK] をクリックします。



図 3-46 ネットワークの編集

12. [ネットワークの構成] 画面に戻ったら、[次へ] をクリックします。
13. [DNS とドメイン設定の入力] 画面で、以下の設定をします。
 1. [プライマリ DNS]、[セカンダリ DNS]、[ターシャリ DNS] に、DNS サーバの IP アドレスを入力します。
 2. [DNS 検索パス] に DNS 検索で使用するドメイン名を入力し、[追加] をクリックします。下の欄に、設定したドメイン名が表示されます。
 3. [次へ] をクリックします。

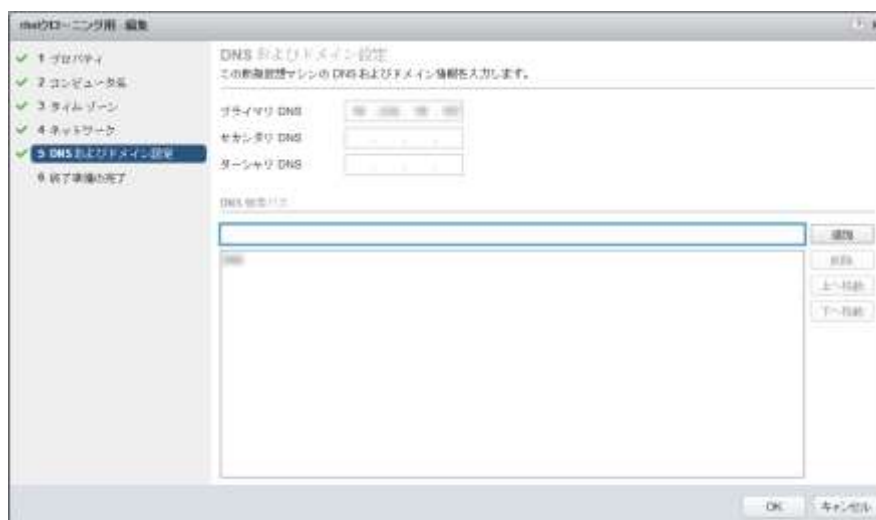


図 3-47 DNS およびドメイン名設定

14. [終了準備の完了] 画面で、[OK] をクリックします。
[既存の仮想マシンのクローン作成] ウィザード画面に戻ります。



図 3-48 終了準備の完了

15. [ゲスト OS のカスタマイズ] 画面で、作成した仕様を選択し、[次へ] をクリックします。

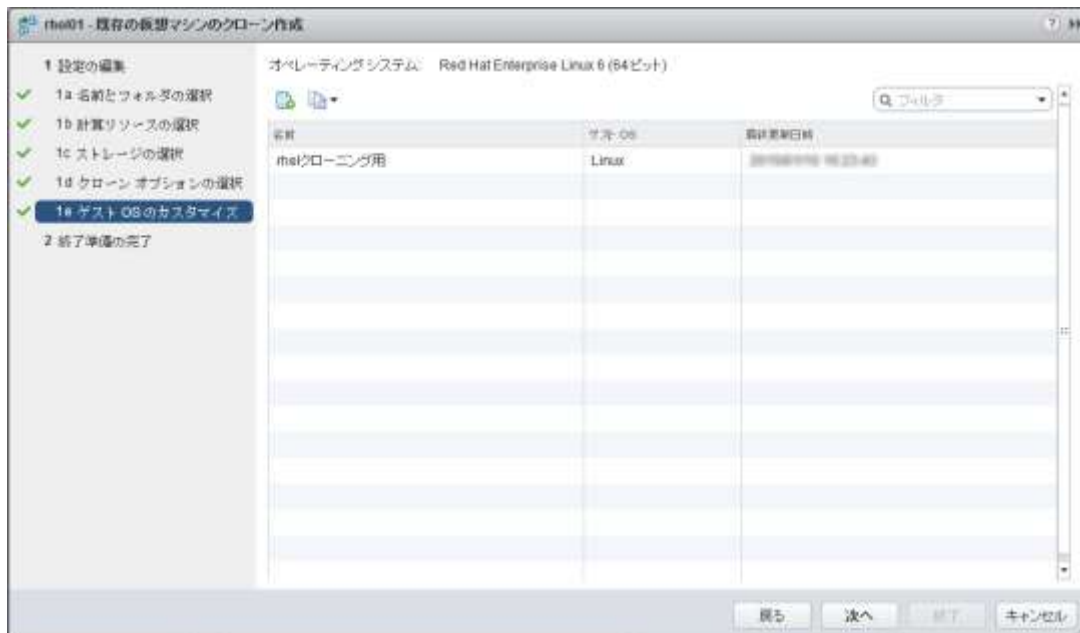


図 3-49 ゲスト OS のカスタマイズ

16. [終了準備の完了] 画面で、[終了] をクリックします。
仮想マシンのクローンが作成されます。



図 3-50 終了準備の完了 (クローン作成)

17. 作成した仮想マシンのコンソールにログインし、正しく動作することを確認します。
必要に応じて仮想マシンの設定を変更してください。

改版履歴

版数	日付	変更箇所（注）	変更内容
01	2015-02-27	—	初版作成
02	2016-11-30	—	第二版更新
03	2017-10-01	—	第三版更新

使用条件

著作権・商標権・その他の知的財産権について

コンテンツ（文書・画像・音声等）は、著作権・商標権・その他の知的財産権で保護されています。本コンテンツは、個人的に使用する範囲でプリントアウトまたはダウンロードできます。ただし、これ以外の利用（御自分のページへの再利用や他のサーバへのアップロード等）については、当社または権利者の許諾が必要となります。

保証の制限

本コンテンツについて、当社は、その正確性、商品性、御利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、その御利用により生じた損害について、当社は法律上のいかなる責任も負いかねます。本コンテンツは、予告なく変更・廃止されることがあります。

不明な点は、「本製品のお問い合わせ」 (<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/contact/>) よりお尋ねください。

無断転載を禁じます。

CA92344-0518-03